



# Women Empowerment Report 2023

女性のエンパワーメント 年次レポート2023



**.WE** LEAGUE

# 本レポートの作成にあたり

2020年10月23日、日本サッカー協会（JFA）と日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）は、国連グローバル・コンパクトとUN Womenが共同で作成した「女性のエンパワーメント原則（Women's Empowerment Principles / WEPs）」に署名し、参加することとしました。

日本国内の競技団体の参加はJFAとWEリーグが初めてであり、WEPsに参加することによって女性が力を発揮できる労働環境・社会環境を整備することへの強い意思を示すとともに、サッカー界での女性活躍を推し進めながらスポーツ界を牽引していきたいと考えています。

署名以前より、また署名を契機として、さまざまな取り組みを行っていますが、特に7つの原則に従ってその取り組みを年次でしっかりフォローするために、年次レポートを作成することとしました。すぐに成果が出るものばかりではありませんが、取り組みを統合してパワーを持って推進していくこと、取り組みを内外に明示すること、成果や課題をフォローしていくことを目的としています。

署名した2020年をゼロ年として、年次レポートを作成し、発信してきました。こうした形で作成することで、このトピックに関してまとまった形で発信でき、サッカー界の皆さんに届け、お伝えすることができた実感がありました。

今回、3年目の年次レポートを作成しました。急激に大きな変化が起きるものではありませんが、一歩一歩、サッカーファミリーの中でさらに取り組みを深めていきます。

## CONTENTS

- 03 ごあいさつ
- 04 女性のエンパワーメント原則 (WEPs) とは、WEPsの7原則
- 06 署名の背景・目的
- 08 年次レポートが果たす役割

### 〈活動報告〉

- 10 [原則1] トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進
- 16 [原則2] 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃
- 25 [原則3] 健康、安全、暴力の撤廃
- 29 [原則4] 教育と研修
- 37 [原則5] 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動
- 41 [原則6] 地域におけるリーダーシップと参画
- 43 [原則7] 透明性、成果の測定、報告
- 44 女子サッカーインフォメーション (2023年トピックス)

# ごあいさつ



公益財団法人  
日本サッカー協会 (JFA)  
会長  
田嶋幸三

**日** 本サッカー協会 (JFA) が WEPs に署名して3年が経過し、女性のエンパワーメントに対するサッカー界の意識は高まりつつあります。

JFA は、老若男女、ジェンダーや障がいの有無、国籍などを問わず、誰もがサッカー・スポーツに親しめる多様な機会と選択肢を届けることを目的に、「アクセス・フォー・オール (Access for All) 構想」について議論を進め、2024年春にその宣言とアクションプランを公表することになっています。

一方、2023年6月にはなでしこジャパン (日本女子代表) のパーパス (Purpose) 「自分らしく挑戦する象徴であること」を発表しました。東日本大震災で被災した日本を元気づけたように、次は、新しい時代をリードする象徴として存在することを目指します。

2024年はオリンピック・パラリンピックイヤーです。また、FIFA U-20/U-17女子ワールドカップも控えており、再び女子サッカーに注目が集まります。日本の女子サッカーが世界の大舞台で輝きを放ちながら躍動することで再び人々に勇気や希望をもたらし、ジェンダー平等や女性活躍社会の実現、多様性のある社会づくりに寄与できればと考えています。

WEPs は、JFA が女性のエンパワーメントに取り組むための指標になります。今後もステークホルダーとのエンゲージメント強化を図るなどして WEPs が掲げる「7つの原則」に取り組んでいきます。



公益社団法人 日本女子プロサッカーリーグ  
(WEリーグ) チェア  
一般社団法人日本女子サッカーリーグ  
(なでしこリーグ) 理事長  
公益財団法人日本サッカー協会 (JFA)  
副会長  
高田春奈

**2021** 年に日本初の女子プロサッカーリーグ「WE リーグ」が設立され、丸2年が過ぎました。2023年夏にはプロ化して初の大きな国際大会、FIFA 女子ワールドカップオーストラリア & ニュージーランド2023が開催されました。スペインやイングランドなど、プロリーグが活性化する国を中心に全体的な競技のレベルアップが感じられた大会となりましたが、それとともに見えてきたのは、参加国の増加によるすそ野の広がり、諸外国における女子サッカーが女性のエンパワーメントの源、活躍する女性の象徴になっているというポジティブな気配でした。その国際的な流れを受けて、私たち WE リーグにおいても、2023-24シーズンではよりレベルの高いフットボールの実現、そしてそれをより多くの方に見ていただけるような取り組みに力を入れていきます。

それに伴い必要となるのが、老若男女が足を踏み入れやすいスタジアムの雰囲気づくりや参入基準にも掲げている多様性の確保された組織づくり、社会事業としての理念推進活動である WE ACTION のさらなる発展です。私たち WE リーグは、トップレベルの競技団体であると同時に、多様な人々が生き生きと輝ける社会への貢献を目指しています。そしてその志は、私たちだけで簡単に達成できるものではありません。パートナー企業、自治体、ファン・サポーター、ホームタウンの皆さまなど、応援して下さる仲間と共に、その輪を広げていき、そして生き生きと輝く女性のロールモデルとなることを目指して、今後も活動を継続してまいります。

それに伴い必要となるのが、老若男女が足を踏み入れやすいスタジアムの雰囲気づくりや参入基準にも掲げている多様性の確保された組織づくり、社会事業としての理念推進活動である WE ACTION のさらなる発展です。私たち WE リーグは、トップレベルの競技団体であると同時に、多様な人々が生き生きと輝ける社会への貢献を目指しています。そしてその志は、私たちだけで簡単に達成できるものではありません。パートナー企業、自治体、ファン・サポーター、ホームタウンの皆さまなど、応援して下さる仲間と共に、その輪を広げていき、そして生き生きと輝く女性のロールモデルとなることを目指して、今後も活動を継続してまいります。



UN Women 日本事務所長  
福岡史子

**2023** 年は FIFA 女子ワールドカップの開催に湧き、なでしこジャパンの選手の皆さんの健闘に世界中が勇気と感動をもらいました。今大会では、各国代表の主将が「飢餓ゼロ」や「平和」など8つのメッセージから選んで腕章を付けることが可能となりました。その中でも、日本の熊谷紗希主将は「ジェンダー平等」の腕章を付けてくださり、UN Women (国連女性機関) の本部ニューヨーク (アメリカ) から大きな声援を送りました。私たちは関係者の皆さまと共に、スポーツを通じて、またスポーツ界でのジェンダー平等に取り組んでいく必要性を痛感いたしました。というのも、スポーツにおいて暴力やハラスメント、差別、賃金格差がなく、男性も女性もアスリートが皆、最高のプレーができる環境を整備していくことが重要だからです。

JFA と WE リーグは、国内の競技団体に先駆けて2020年に UN Women が主導する「女性のエンパワーメント原則 (WEPs)」に賛同し署名くださり、女性の活躍を推進していくという強い意思を示されました。JFA と WE リーグのさらなる前進に向けた取り組みに対し、UN Women は共に歩み、イノベティブなアイデアを出し合いながら、連携をより一層進めてまいりたいと考えております。

# 女性のエンパワメント原則とは？

[Women's Empowerment Principles / WEPs]

「女性のエンパワメント原則 (WEPs)」とは、企業がジェンダー平等を経営の核に位置付け、自主的に取り組むための行動指針です。持続可能で包摂的な経済成長に不可欠であるジェンダー平等を達成すると同時に、企業の経済的・社会的価値を高めることを目指しています。7つの原則は、「職場 (社内)」「市場 (マーケットプレイス)」「地域コミュニティ (社会)」を網羅し、企業が社会的責任のある主体としてジェンダー平等に取り組むことを推奨しています。

2010年3月に国連グローバル・コンパクトと国連婦人開発基金 (UNIFEM、現 UN Women) が共同で策定し、2018年より、UN Women が事務局 (<https://www.weps.org/>) を担っています。

WEPsの対象は、企業 (民間、公共、政府系、

組合、スタートアップ)、業界団体、商工会議所です。法令に基づいて設立された組織体であれば、規模や業界は問いません。署名、実施、報告の3つが基本的なステップです。署名をすることでコミットメントを表明し、7つの原則に沿った取り組みを行い、進捗状況と成果を自発的に報告することが期待されます。

WEPsは、2010年3月8日に策定された女性の活躍推進に積極的に取り組むための行動原則で、企業が現行の慣習や基準、行動を調査し分析するための実践的な手引きとなります。世界でWEPsに参加している企業/団体は8693 (2022年は7269) で、日本国内では2023年11月現在、312の企業/団体が参加しています。

## WEPsの7原則

### 原則 1



#### ▶ 企業トップによるリーダーシップ

本レポートでは→ トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進

ジェンダー平等と女性のエンパワメントを重要経営課題として位置付け、マネージメントと事業活動に浸透させるには、企業トップのコミットメントとリーダーシップが不可欠です。CEOや経営トップ層が、企業の方針、経営戦略、日々の業務、そして組織文化にWEPs7原則を取り入れることでジェンダー平等と女性のエンパワメントを実現するという強い意思を社内外に示すと共に、自らがその取り組みをリードしましょう。

### 原則 2



#### ▶ 職場におけるジェンダー平等

本レポートでは→ 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃

性別に関わらず、すべての労働者に対して公平で差別のない待遇を保障することは、国際的に認められた人権の基準の基本原則です。公平な職場環境は、多様な人材の獲得、定着率・満足度の向上、生産性の向上、より良い意思決定にも寄与します。方針、戦略、組織文化、慣行に存在するあらゆる形態の差別の撤廃は、WEPsにおける最も重要な取り組みの一つです。雇用形態による賃金、能力開発、職場でのキャリアの可能性の差をなくし、全ての従業員が少なくとも基礎的な生活保障とやりがいを持って働ける環境を整備しましょう。また、従来の性別役割分業意識や男性稼ぎ手モデルを前提とした制度、慣行、働き方の変革を通じて、男女が家事・育児・介護などの家庭内のケア責任を分かち合えるようにすることが求められています。

## 本レポートにおける各原則の ステートメントについて

WEPsは企業やさまざまな団体を対象に各原則を定めていますが、JFAとWEリーグは一般的な企業とはやや異なる組織体であることを鑑みて、各原則の行動方針はそのままに、項目名称を実際のアクションに合わせる形を変更しています。

### 原則 3



#### ▶ 従業員の健康、ウェルビーイング、安全

本レポートでは→ 健康、安全、暴力の撤廃

雇用主は、性別に関わらずすべての従業員の心身の健康、安全、ウェルビーイングの維持と促進に重要な役割を担います。セクシュアル・ハラスメント及びあらゆる形態の暴力が放置されることにより、特に、女性従業員は大きなダメージを受けます。休職などで収入が減少したり、昇進の機会を逃したり、心身の健康を損なったりする可能性があるからです。従業員の欠勤や生産性の低下といった形で企業にも損失が生じます。適切に対応しましょう。

### 原則 4



#### ▶ 女性のキャリアアップを可能にする教育と研修

本レポートでは→ 教育と研修

女性が能力を伸ばし、経験を積み、昇進できるようにするためには、女性を対象とした育成プログラムと、すべての従業員を対象としたジェンダーギャップに関する教育の両方が不可欠です。女性の育成プログラムでは、キャリアアップを目的とした研修、ネットワーキング、メンタリングを組み合わせることで、管理職・役員クラスのパイプラインを強化することができます。従業員向けの教育では、ジェンダー平等の推進が自社の方針や事業とどう結びついているかを理解し、共通の理念と価値観を醸成すること、誰もが持つアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）がいかに女性のキャリアアップの阻害要因になり得るかを理解し、対処できるようにすることが重要です。

### 原則 5



#### ▶ サプライチェーン・マネージメントとマーケティング

本レポートでは→ 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動

この原則は、企業が社内だけではなく、サプライチェーンを含む「市場（マーケットプレース）」や社会規範の形成に対しても責任のある主体であることを前提としています。女性と女の子に対するネガティブで画一的な固定観念は、ジェンダー平等の実現を阻む最も大きな要因の一つです。企業広告は、こうした固定観念や社会規範の形成に大きな影響を及ぼします。女性と男性、女の子と男の子が、従来の固定観念にとらわれず、現代的で多様な役割を担っている様子を表現することで、社会に深く根付いているジェンダーバイアスに変革を起こすことができます。インクルーシブ（包摂的）なサプライチェーン方針や、多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じて、企業はさまざまなビジネスパートナーとともにジェンダー平等を推進することができます。

### 原則 6



#### ▶ 社会貢献活動とアドボカシー（啓発）

本レポートでは→ 地域におけるリーダーシップと参画

この原則は、企業が社内だけではなく、事業活動を展開する「地域コミュニティ」や社会に対しても責任のある主体であることを前提としています。国際社会共通の目標であるジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向けて、企業が自らの資源や影響力を活用することが期待されています。近年、SDGsへの関心の高まりとともに、多くの消費者が商品やサービスを購入する際に、「ジェンダー平等の視点に根差した事業活動を行っている企業」や「ジェンダー問題や女性支援に取り組む企業」を選んでいるという動向もあります。

### 原則 7



#### ▶ 成果のモニタリングと報告

本レポートでは→ 透明性、成果の測定、報告

WEPsに署名することによって表明したジェンダー平等と女性のエンパワーメントへのコミットメントを遂行する際に重要なのは、透明性と説明責任です。定期的に進捗状況や成果をチェックする仕組みをつくり、報告していきましょう。数値で表せない成果もありますが、測定することで、進捗状況の把握と次のステップにつなげるための評価が可能になります。また、積極的な報告や情報開示は、投資家、消費者、人材からの評価を高めます。

## 女性活躍社会実現のために戦略的な取り組みが必要

2020年10月23日、JFAとWEリーグは、スポーツ団体では初となるWE Psに署名を行い、女性活躍に対して、組織として積極的に取り組んでい



WE Ps署名を行った田嶋幸三JFA会長（左）と岡島喜久子WEリーグチェア（右）

くことを内外に明示しました。（参照：[https://www.jfa.jp/women/we\\_league/news/00025566/](https://www.jfa.jp/women/we_league/news/00025566/)）

「ジェンダー平等」は、長きにわたり、世界中で取り組み続けられている大きな課題です。日本においても、「女性活躍社会」が日本社会の中での長年の課題であり、その実現に向けて社会全体での取り組みがなされています。一方で、なかなか改善に進まない非常に根深い課題でもあります。グローバルジェンダーギャップ指数（下表および次ページ上表参照）が示すように、**相対的に見て日本の女性活躍は、2023年において146カ国中125位（2022年は146カ国中116位）と非常に遅れており、依然として先進国の中でも最下位です。**思うような変化が起こりにくい中で、「もう女性活躍ではないのでは」という声も聞かれます。

日本のスポーツ界においても同様に、女性の人材活用は遅れています。スポーツ庁が出した「スポーツ団体ガバナンスコード」〈中央競技団体向け〉では、原則2の中で、「組織の役員及び評議員の構成等における多様性の確保を図ること」とされており、女性理事の目標割合

（40%以上）が設定されました。変化を起こすためには、こうした目標割合の設定が必要であるということです。

サッカー界の状況も同様です。サッカーは、ある意味男性の競技の代表格とも言えるスポーツであり、その中で女性も楽しむ競技となってきた歴史があります。世界的に見ても、競技人口も関わる人も、その数に圧倒的な差があります。

世界のサッカー界においても、“Women in football”、サッカー界での女性活躍は、ホットトピックとして積極的に議論され、取り組まれています。社会的に女性活躍が進んだ国であっても、依然として大きな課題です。それでも世界でさまざまなパワフルな女性たちが積極的に取り組んでいる姿があり、非常に刺激になります。

日本サッカー界でも、女性役員、女性人材が不足しています。JFAは、中央競技団体として、スポーツ団体のガバナンスコードの目標達成に向け、取り組んでいく必要があります。社会的にこの課題は広く意識されており、さまざまなところで女性人材を積極的に登用しようという動きが近年増えてきているのは確かです。一方で、せっかく登用しようと思っても、候補者がいない、勧めても女性たちが積極的にそれを受けがらない、という声も多く聞かれます。こうした側面も、この課題の典型的な部分とも言えます。それも含めて、戦略的な育成・強化とマインド変革が必要です。

### ▶ ジェンダーギャップ指数(2023) 上位国及び主な国の順位

順位	国名	値	前年値	前年からの順位変動
1	アイスランド	0.912	0.908	—
2	フィンランド	0.879	0.86	—
3	ノルウェー	0.863	0.845	—
4	ニュージーランド	0.856	0.841	—
5	スウェーデン	0.815	0.822	—
6	ドイツ	0.815	0.801	↑4
15	英国	0.792	0.78	↑7
16	フィリピン	0.791	0.782	↑3

順位	国名	値	前年値	前年からの順位変動
40	フランス	0.756	0.791	↓25
43	米国	0.748	0.769	↓17
105	韓国	0.68	0.689	↓6
107	中国	0.678	0.682	↓5
124	モルディブ	0.649	0.648	↓7
<b>125</b>	<b>日本</b>	<b>0.647</b>	<b>0.65</b>	<b>↓9</b>
126	ヨルダン	0.646	0.639	↓4
146	アフガニスタン	0.405	0.435	—

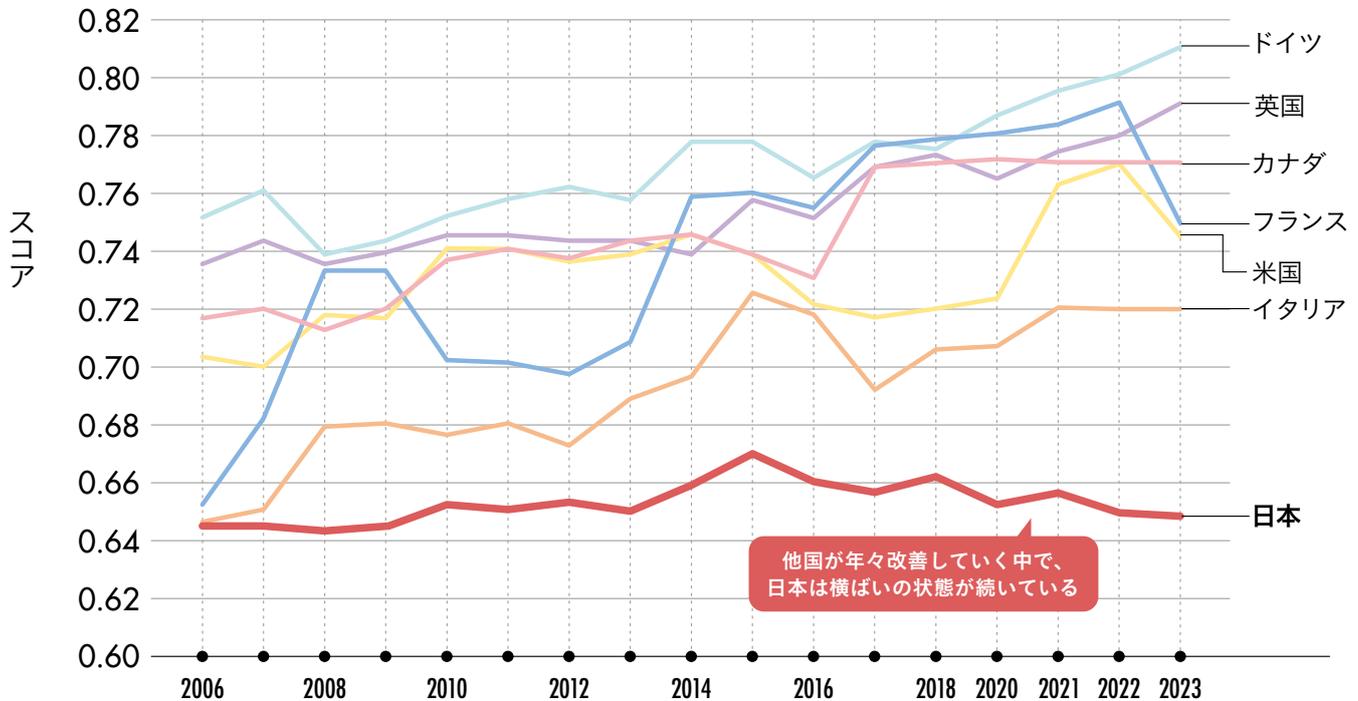
（世界経済フォーラム発表）

## G7各国のジェンダーギャップ指数比較

### ▶ 各分野における日本のスコア

分野	経済	政治	教育	健康	総合
スコア	0.057	0.561	0.997	0.973	<b>0.647</b>
昨年のスコア	0.564	0.061	1	0.973	<b>0.65</b>
順位	138位	123位	47位	59位	<b>125位</b>

(世界経済フォーラム発表)



※2018年公表まではレポートが公表されていたが、2019年公表分は「GGGR 2020」となり、2020年のインデックスとして公表されたため、年の数字が連続していない

## 積極的かつ継続的な取り組み、サッカーファミリーとの共有

その契機の一つとして、JFAは日本女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」発足を決め、2021年9月に開幕しました。

WEリーグは、「Women Empowerment League」という名の通り、社会的意義を重視し、「女性活躍社会の牽引」を設立意義の一つに掲げ、女性役員・スタッフなどの配置目標も設定して取り組んでいます。「牽引する」とは、この難しい課題に対し、自ら具体的に実行して成果を出していき、もって社会に提示していくことを目指すということです。

数値目標を掲げること、いわゆる「クォータ制」にはさまざまな議論がありますが、変化を起こすきっかけを得るためには重要な「ポジティブアクション」です。そうする一方で、それを確実に機能させるために、研修などのサポートを行っていくこととしています。ゴールは「配置すること」ではなく、多様性の意義を、サッカー

界で積極的に実践することで、実感し、それを当たり前にしていくこと、そしてスポーツ界や社会へと発信していくことです。

社会や文化に深く根ざした非常に重大なトピックであるため、何かに取り組み始めたからといってすぐに変化が起き、解決に近づくような簡単なものではありませんが、確実に身をもって実行していくこと、積極的にトライしていくこと、粘り強く継続的に取り組んでいくこと、それを広くサッカーファミリーと共有していくことで、多様性の意義を実現し、実感できるサッカー界を目指していきます。

マイノリティの中の最大のマジョリティと言われる女性がこれを実現することで、真の多様性の推進、サッカー・スポーツのさらなる発展に寄与していくことが私たちの願いです。

# 女子サッカー発展のために WEPs年次レポートが果たす役割

## 世界の女子サッカー発展の 機運をつかむ

2023年7～8月に行われたFIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023は、ヨーロッパで開催されたUEFA女子EURO（欧州女子選手権）2022に続き、あらゆる面で史上最高をたたき出し、パフォーマンス面でも社会面でも大成功を収めました。「女子の」ということではなく「サッカー」として語られ、これまでの観客に加えて新たなオーディエンスを獲得したとされ、女子サッカーの価値が高まったことが証明された大会と評価されました。決勝に際して開催されたFIFA女子サッカーコンベンションでも、「この機運、そして新たに獲得したオーディエンスを失いたくない。今こそその時！開いた扉を閉じてはならない」ということが共有されました。

近年、ヨーロッパのビッグクラブを中心に、女子サッカーへの投資が始まっています。プロフェッショナル化、プレー環境が劇的に向上していることなどから、サッカーのレベルは上がり、多くの観客が集まる試合も出てきています。その広がりにはヨーロッパだけでなく、アメリカの女子サッカーリーグの活況を筆頭に、南米などでもリーグのプロ化をはじめとした投資の促進が起こっています。それが代表選手、代表チームのパフォーマンスにも影響を与えるようになってきました。

なでしこジャパン（日本女子代表）は、2023年のワールドカップでベスト8という結果でしたが、ピッチ内でのパフォーマンスはもちろん、リスペクト・フェアプレーをはじめピッチ内外で大会の成功に大きく貢献したと評価されました。その後、同年9～10月に開催された第19回アジア競技大会（2022/ 杭州）でも優勝を成し遂げ、多くの個性豊かな選手たちが後に続いています。

世界の女子サッカーのこうした機運をつかみ、WEリーグとともに、2024年の第33回オリンピック競技大会（2024 /パリ）に向けてつなげていき、日本でも女子サッカー発展の好循環を生み出したいのです。

## 女子サッカーの歩み

世界的に、女子サッカーは19世紀に始まり、その後、人気を博していったとされ、女性初の試合開催は1895年と記録されています。しかし1921年、サッカーの母国・イングランドでは女性へのグラウンドの貸し出しを禁止とし、他国もそれに続きました。1971年によりやうく解禁となり、そこから女子サッカーが再開。1970年代に入り、ようやくこの通達が破棄され、オランダやドイツもそれに続きました。そして、国際サッカー連盟（FIFA）が初めて女子の国際試合を公認し、また各国協会でも女子サッカーにも取り組むようになり、そこから約50年の歴史の中で、発展を遂げてきました。

日本でも同様に、明治時代末期から大正期に、全国の高等女学校において授業や運動会でサッカーを行った記録がありますが、その後は中断。兵庫県神戸市での女子同士の最初の試合が1967年、女子サッカー連盟ができて登録が始まったのが1979年です。後発ですが、多くの方の情熱と尽力によってここまで発展してきました。1989年には日本女子サッカーリーグが誕生。それを基盤に、1991年に初開催されたFIFA女子ワールドカップ（当時はFIFA女子世界選手権）において、日本は第1回から9大会全てに出場している7カ国のうちのひとつとなっています。そして2011年には、なでしこジャパンがワールドカップで初優勝。U-17日本女子代表、U-20日本女子代表がそれに続き、3カテゴリーのワールドカップを制覇した最初の国となりました。

世界の女子サッカーも日本の女子サッカーも、短い歴



史の中で急速に発展を遂げています。全世界の人口の半分は女性ですので、女子サッカーにはまだまだ大きな伸びしろがあると言えます。

## 女子とサッカーを考える上での 2つのエリア

「女子」と「サッカー」を考える上で、2つのエリアがあります。

「女子サッカー」と言うと、主に女子同士で行うサッカーが想定されがちですが、FIFAでも「女子が行うサッカー」と「サッカーにおける女性」の2つがあるとしており、この両方をカバーして発展させていく必要があります。

キッズ年代から大人に至るまで、男女ミックスの環境でサッカーをする人たちも多く、またその状況は年齢や時期、地域によって異なります。女子が行うサッカーを豊かにしようと考えたときに、より広く目を配る必要があります。日本サッカーをさらに広げていくためにも、女子サッカーの発展は欠かせません。

サッカーに関わる女性という意味で、女子サッカーのみならず、サッカーやスポーツに関わる女性にも目を向けていく必要があります。現状は、主に女子サッカーに関わる人材が想定されますが、それだけではなく、サッカー全体に関わっているさまざまな人材もいます。こうした人材を含めて、もっと関わる人を増やしていくことが重要だと言えます。

「意思決定機関にもっと女性を」と言われますが、どうすればもっと女性をはじめとする多様な人を楽しんでもらえるかを考えていく必要があります。そのためには、多様な視点やマインドが必要であり、とすればそれは日本サッカーにおいて、これまで欠けていたものかもしれません。

## 女子サッカーは日本サッカー 全体に関わるもの

日本サッカー協会（JFA）は「JFA2005年宣言」、また2022年に発表した「Japan's Way」の中で、サッカーファミリーを拡大し、世界一サッカーで幸せな国になることを目指すとうたっています。もともと男性と同じ人数を擁する女性が増え、それが実現に近づいていくはずですが。

JFA女子委員会が掲げる「なでしこ vision」の前文では、以下のように記しています。

**「JFAの理念、ビジョン、約束」を実現するために、  
そして、女子サッカーを文化にするために、  
「世界のなでしこになる。」というビジョンのもと、  
日本サッカーに関わる全ての人々が共有し、遂行する、  
3つの目標を定める。**

女子サッカーが女子サッカーのためだけにあるのではなく、日本サッカー全体に関わるものであり、携わる全ての人と共有し遂行していく、ということです。また後文には、以下のように記しています。

**そして、女性が輝く社会を  
サッカー、スポーツのあらゆる場に女性が関わり、  
ポテンシャルを発揮できる社会の実現を目指す。  
女子サッカーがその固有の価値で、日本・アジア・世界の、  
サッカー・スポーツそして社会の発展に貢献する。**

女性が、意思決定機関ばかりでなく、サッカーのあらゆる場に関わっていくこと、そして持てる力を発揮できるようにしていくこと。男子のミニチュアではない女子サッカーの固有の価値を向上させ、伝えていくこと。それをもって日本サッカーに貢献していくこと。これらを実現していくことが求められています。

世界の女子サッカー発展の大きなポイントに立った今、このWEFs年次レポートに示す情報が、より広く、多くの人に伝わり、広範囲での動きにつながり、先に掲げたあらゆることの実現に向けた一助となることを願ってやみません。



## 原則 1



## 取り組み報告

# トップのリーダーシップによる ジェンダー平等の促進

### JFA なでしこvision

「JFA2005年宣言」を受けて、女子サッカーをどのように発展させていくかというビジョンである「なでしこvision」を2007年に策定し、定期的に改訂を重ねています。

2015年の改訂では、下記の女性活躍に言及する文言を追加。2022年に新たに改訂を加え、現在に至ります。

#### そして、女性が輝く社会を

サッカー、スポーツのあらゆる場に女性が関わり、ポテンシャルを発揮できる社会の実現を目指す。女子サッカーがその固有の価値で、日本・アジア・世界の、サッカー・スポーツそして社会の発展に貢献する。



#### JFA 公式 Web サイト

参照：[https://www.jfa.jp/women/nadeshiko\\_vision/](https://www.jfa.jp/women/nadeshiko_vision/)

### なでしこ vision 世界のなでしこになる

「JFAの理念、ビジョン、約束」を実現するために、そして、女子サッカーを文化にするために、「世界のなでしこになる」というビジョンのもと、日本サッカーに関わる全ての人々が共有し、遂行する、3つの目標を定める。

#### 1. サッカーを女性の身近なスポーツにする。

グラスタジアムからトップに至る環境を充実させ、全国どこに住んでも、何歳でも、サッカーにアクセスでき、楽しみ続けられる環境をつくる。  
選手、指導者、審判員、運営など、生涯かわり続けられる環境をつくる。  
女子サッカーの価値を高め、背から花嫁されるスポーツ、女の子達が夢の抱けるパスウェイとなる。

2023年までに、登録女子プレーヤーを200,000人にする。

#### 2. なでしこジャパンが世界のトップクラスであり続ける。

U-20/U-17ワールドカップに常時出場、ひとつでも多くの試合を経験し、メダルを目指す。  
ワールドカップ/オランピックに常時出場し、優勝を目指す。  
WEリーグを成功させ世界一のグローバルにする。

再び世界へ。

#### 3. 世界基準の「個」を育成する。

金チーム、47FAでの、U12-15年代からの個の育成が、なでしこジャパンを世界で輝かせる。  
なでしこジャパンにつながる、タレントの発掘・育成システムを確立し、常に最適化させ続ける。  
女子サッカーに関わる人材、特に女性の指導者・審判員の数を増やし、レベルアップを図り、世界で活躍する人材を輩出する。

そして、女性が輝く社会を

サッカー、スポーツのあらゆる場に女性が関わり、ポテンシャルを発揮できる社会の実現を目指す。  
女子サッカーがその固有の価値で、日本・アジア・世界の、サッカー・スポーツそして社会の発展に貢献する。

「なでしこ」らしく  
ひたむき 芯が強い 明るい 礼儀正しい  
「なでしこ」らしい選手になろう！  
「なでしこ」らしい選手を育てよう！

### JFA JFA女子サッカーデー

国際連合（国連）が定める毎年3月8日の「国際女性デー」を、2019年より「JFA女子サッカーデー」と定め、女子サッカー、女性活躍に向けて、「世界でいちばんフェアな国になろう」というスローガンを掲げ、社会面と普及面の両面で取り組みを行っています。47都道府県サッカー協会にも呼び掛け、それぞれ活動をしています。

2023年3月には、JFAのほかに、WEリーグ、なでしこリーグ、女子Fリーグ、全日本大学女子サッカー連盟といった女子競技組織だけでなく、日本ビーチサッカー連盟、日本障がい者サッカー連盟、日本フットボールリーグ、Fリーグといった各連盟とも連携して実施し

ました。

アジアサッカー連盟（AFC）でも、JFAに先立って、「女子サッカーデー」としてアジア全体で女子サッカーに関わる活動をする日としています。JFAとして、その活動とも連動しています。

### JFA 女子サッカーデー



#### JFA 公式 Web サイト

参照：<https://www.jfa.jp/women/womensfootballday2023/>

## WEリーグ開幕

「これは新しい日本のキックオフだ」を合い言葉に、2020年7月1日、WEリーグが設立されました。名称は「Women Empowerment League」。リーグを核として、関わる私たちみんな（WE）が主人公として活躍する社会を目指した、日本初的女子プロサッカーリーグです。

そして2021年9月11日、プレーでも、社会への貢献でも、世界一の女子サッカーリーグへまい進する「Yogibo WE リーグ」が開幕。北は仙台、南は広島まで、9都県から11クラブが参加。プレナスなでしこリーグからの9クラブと女子チームが新設された2クラブの編成でした。それまで男子チームのみを保有していた大宮アルディージャとサンフレッチェ広島は、WEリーグ設立をきっかけに女子チームを新設しました。

欧米の主要シーズンに合わせて秋春制を採用したのもWEリーグの特徴です。ヨーロッパでは、ジェンダー平等の観点から、多くの主要クラブで女子チームを保有する動きが近年急速に進んでいます。2022年3月のUEFA女子チャンピオンズリーグ2021-22の準々決勝、FCバ

ルセロナ対リアル・マドリードでは9万1533人の観客を動員しました。またアメリカでは、男女同一報酬（EQUAL PAY）に関する選手たちの運動により、アメリカサッカー連盟は、女子選手が代表チームで活動する際の報酬を男女同一にする内容の新たな労働協約に、男女それぞれの選手会と合意しました。世界において、女子サッカーの価値が高まっている中、すべての世代でFIFA女子ワールドカップを制覇した日本女子サッカー界における、WEリーグに期待がかかっています。

初年度の2021-22シーズンは、INAC神戸レオネッサが優勝。WEリーグアウォーズでは、個性豊かな衣装に身を包んだINAC神戸の選手たちが、WEリーグトロフィー「Women Empowerment Trophy」を掲げました。3シーズン目となる2023-24シーズンは、セレッソ大阪ヤンマーレディーズを迎え、12チームで開催しています。



WE リーグ公式 Web サイト

参照：https://weleague.jp/



©WEリーグ



©WEリーグ

## WEリーグの名称とロゴ

WE リーグは「Women Empowerment League」の略称です。この名称には日本に「女子プロサッカー選手」という職業が確立され、女子が「サッカー選手」を夢見ることができる社会、関わる私たちみんな（WE）が主人公として活躍する社会を目指す、という思いが込められています。

また、ブランドモチーフの「●」（ドット）は、「サッカーの躍動感」「新たなつながり」「これからの日本」を表しています。

## **.WE LEAGUE** WEリーグの理念とビジョン

WEリーグは、「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」を理念としています。理念を具現化するために、理念へのコミットメントとして、リーグのみならず、一つ一つのクラブが、選手一人ひとりが、理念の推進に向けた意思表示を行っています。

理念の具現化には、リーグ戦の実施、女子サッカーチームの環境整備や選手育成といったサッカー事業と、社

会に働き掛ける社会事業の2つの要素が不可欠です。WEリーグでは、理念の実現に向けた3つのビジョンを策定しています。「VISION 1」であるサッカー事業と、「VISION 2」である社会事業の両輪をWEリーグの事業として定め、その2つのビジョンを支える事業基盤の構築を「VISION 3」として推進することで、理念の実現に向けて活動していきます。

### 理念

女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する。

#### VISION 1

- ①世界トップ水準の競技力、選手・スタッフの輩出
- ②日本全国で女子サッカーの競技力のボトムアップの実現
- ③日本各地に女子がサッカーを楽しめる場を広げる

[サッカー事業]

#### VISION 1

世界一の女子サッカーを。

[社会事業]

#### VISION 2

世界一アクティブな女性コミュニティへ。

[事業基盤]

#### VISION 3

世界一のリーグ価値を。

#### VISION 2

- ①女性が起点となり、社会全体に前向きな変化を生み出す原動力になる
- ②スポーツの枠を超えて、個人、団体、企業の集まるプラットフォームとなる

#### VISION 3

- ①社会面、競技面の発展を支える、リーグ基盤(財政・組織)を確固たるものとする
- ②リーグの本質的価値を事業成果としてあらわす
- ③多種多様な働き方を内包した、社会のロールモデルとなる組織を実現する

## **.WE LEAGUE** 理念推進のために設定した参入基準 ※[原則2]にも該当

リーグの理念を推進するために、下記の参入基準を設定しました(理念に関わる部分を抜粋)。

#### [法人を構成する人員における女性の登用]

当該クラブの運営にあたる法人を構成する役職員の50%以上を女性とする。同一法人内で複数のチームを運営している場合は、当該クラブの運営にあたる組織を明確に示すこと(入会から3年以内に達成すること)。

#### [役員における女性の登用]

当該クラブの意思決定に関わる者のうち、少なくとも1人は女性とすること(取締役以上が望ましい)。

#### [トップチーム、アカデミーチームスタッフ]

コーチングスタッフ(監督またはコーチ)の中に女性指導者1人以上を含むこと。

#### [託児施設の設置]

ホームスタジアムに授乳室および託児施設を設置すること。

## **.WE LEAGUE** WEリーガークレド(行動規範)

2021年8月に、WEリーガークレド(行動規範)を発表しました。岡島喜久子チェアと各クラブの選手代表者11人が集まり、3月8日の国際女性デー/JFA女子サッカーデーに実施した「第1回WE MEETING」を皮切りに、クラブ内でも議論を重ね、5カ月をかけて自分たち自身で「みんなが主人公になるためにプレーする」という言葉をクレドとして決定しました。

この言葉は、各クラブのキャプテンが2021-22シーズンのホーム開幕戦の選手宣誓として読み上げました。



#### WEリーグ公式 YouTube チャンネル

クレド開発ミーティング  
~クレドができるまで~

参照：<https://youtu.be/9sJso6D7jvM>

## **.WE LEAGUE** 優勝チームに贈られる「WEリーグトロフィー」

「一人ひとりが輝く社会の実現」を目指すWEリーグは、下記のように長年続いた考え方を壊し、「未来の可能性」「エンパワーメント」を象徴するトロフィー「Women Empowerment Trophy」を製作しました。

WEリーグトロフィーは、岡島喜久子初代チェアや日本の女子サッカーを代表するさまざまな世代の選手や女性たちが、自身でぶつかってきた見えない「ガラスの壁」をサッカーボールで壊すことから製作を開始。その壊れたガラスの破片を使って女性のガラス職人／デザイナーがトロフィーを完成させました。また、クリエイ

ティブディレクター、プロデューサー、監督、カメラマン、音楽など、すべて女性のスタッフでトロフィーのメイキング映像を作成しました。

初代チャンピオンはINAC神戸レオネッサ、2シーズン目となる2022-23シーズンは三菱重工浦和レズレディーズがWEリーグトロフィーを掲げました。



### WEリーグ公式 YouTubeチャンネル

WEリーグトロフィー「ガラスの天井」を壊す  
参照：<https://youtu.be/CLIsDanQgKc>



©WEリーグ

## **なでしこリーグ** なでしこリーグビジョン・ステートメント

なでしこリーグは、設立以来30年以上にわたり、日本女子サッカー界を牽引してきましたが、2021年にWEリーグが開幕し、最高峰のアマチュアリーグとなりました。

そこで、なでしこリーグでは、「これまで築き上げてきた歴史を継承しつつ、これからさらに魅力的なリーグに発展させていきたい」というリーグに関わる人々の思いを象徴するビジョンとステートメントを作成しました。なでしこリーグは、「普及」「地域」「多様性」をキーワ

ードに、女性が人生のさまざまなステージにおいてサッカーとともに活躍できるリーグを目指していきます。



### なでしこリーグ公式 YouTubeチャンネル

なでしこリーグビジョン・ステートメントイメージムービー  
参照：[https://youtu.be/Grd\\_xEE6O50](https://youtu.be/Grd_xEE6O50)

## **JFA** JFA規則：妊娠／出産に関わる契約上の不利益の禁止

選手・スタッフたちが妊娠や出産に関わることで契約上の不利益を被ることがないように、以下の事項を規則として定めています。

- 妊娠／出産した選手の各種権利の保障
- 妊娠／出産を理由にした契約破棄の禁止
- 妊娠／出産した選手に係る登録上の例外ルール
- 出産後にサッカー活動を再開した選手への配慮義務

## **.WE** LEAGUE 理念推進日「WE ACTION DAY」

11クラブでスタートしたWEリーグでは、毎節、試合のないチームが1チームありました。試合のないクラブは理念推進活動を行う「WE ACTION DAY」として、シーズンを通じて1クラブ2回、活動を実施しました。2022-23シーズンには、次ページの表のような活動が行われました。選手が企画から関わるクラブもありました。シーズン中に選手全員が関わるのは、WEリーグならではの活動です。

WE リーグアウォーズでは、「MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAY」を表彰しており、2022-23シーズンは、

アルビレックス新潟レディースが第11節に実施した「世界の笑顔のために～ユニフォームでつながるウガンダの少女たちとの国境を越えた交流イベント」が情報発信部門と連携部門を受賞。また、ちふれASエルフェン埼玉が第20節に実施した「子供たちの未来に夢や希望を！」が選手主体性部門を受賞しました。



### WEリーグ公式 YouTube チャンネル

2021-22 WE ACTION DAYの様子

参照：<https://youtu.be/fxRTuAk18bl>



親子で防災を学ぶイベント  
(マイナビ仙台レディース)



地域の大学とのワークショップ  
(三菱重工浦和レッズレディース)



中学生とジェンダーについてのディスカッション  
(大宮アルディージャVENTUS)



少女サッカークラブと交流  
(ちふれASエルフェン埼玉)



中学生とジェンダー課題のディスカッション  
(ジェフユナイテッド市原・千葉レディース)



さまざまな世代とスポーツイベントで交流  
(AC長野パルセイロ・レディース)



アスリートとパパと一緒に楽しむイベントを開催  
(日テレ・東京ヴェルディベレーザ)



「学年・性別・障がいにとらわれない」小学生との交流イベント  
(ノジマステラ神奈川相模原)



国境や障害を超えたサッカーイベント  
(アルビレックス新潟レディース)



本気のサッカー教室を実施  
(INAC神戸レオネッサ)



『女性特有の健康課題』トークイベント  
(サンフレッチェ広島レジーナ)

## **.WE** LEAGUE WE ACTION MEETING

WE リーグは理念の実現に向けて、クラブ・選手やリーグパートナー、メディアと連携した ACTION を実施するための会「WE ACTION MEETING」を定期的で開催しています。

初年度は、WE リーグ各クラブの理念推進担当者、WE リーグパートナー、メディア、WE リーグ担当者が集まり、計3回の WE ACTION MEETING を行いました。

1回目の2021年12月14日は、社会および身近に感じるジェンダー課題の共有、2022年1月18日に開催された2回目は選手からのジェンダー課題が発表されました。3回目(2月22日)には、それまでに出た課題に対する解決のアイデアプレストが行われました。

2年目は、課題を解決していくフェーズとして、2023年2月にJFAハウス(東京都)に集まって4回目の会議

を行いました。初年度に出たジェンダー課題のうち、一般社会の課題である「母頼りが多すぎる問題」「日本の女子の自己肯定感が低すぎる問題」、スポーツ界で起こっている「女性は10代でスポーツをやめちゃう問題」「女性コーチは約3割問題」の4つをピックアップし、身の回りではどのようなシーンを見かけるか、個人レベルでできる解決アクションは何かを話し合いました。また、オンラインで実施をした5回目には選手も参加し、チー

ム（スポーツ×パートナー×メディア）でできる解決アクションを言葉にし、レポートとしてまとめました。ここで出た意見をもとに、今後は具体的な取り組みを行います。



### WEリーグ公式チャンネル

WE ACTION MEETINGの様子  
参照：<https://youtu.be/pzsgbl-Lxy0>

## 2022-23 WE ACTION DAY

クラブ名	実施節	実施日	イベント名	内容
ノジマステラ神奈川相模原	第1節	2022年10月23日	ノジマスポーツフェスティバル2022	神奈川県内の各種スポーツ団体と連携したスポーツイベント
大宮アルディージャVENTUS	第2節	10月26日・30日	VENTUS ACTION WEEK	ジェンダーに関する事前学習を基にした、地域の中高校生とのグループワーク・サッカー教室
INAC神戸レオネッサ	第3節	11月6日	UNDOKAI WORLD CUP	誰もが平等にスポーツを楽しめるスポーツイベント開催・サッカー教室
三菱重工浦和レッズレディース	第4節	11月22日	レッズレディース×埼玉大学生 ワークショップ	埼玉大学学生とのワークショップ
AC長野パルセイロ・レディース	第5節	12月3日	WE ACTION DAY in 長野・佐久	シッティングバレーボール体験会、佐久長聖高校女子サッカー部との座談会、サッカー教室
日テレ・東京ヴェルディベレーザ	第6節	12月11日	SPORT FESTIVAL ～アスリートとパパと一緒に楽しもう～・ホームタウンクリーン活動	パパの育児参加促進を目的としたイベント・ホームタウンクリーン活動
ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	第7節	12月24日 2023年2月4日	ジェフ千葉レディース選手がサンタに大変身！ こども食堂クリスマスイベント 「トイレのマークはなぜ青と赤？」座談会	ホームタウン内「こども食堂」訪問 「トイレのマーク」をテーマにしたジェンダー平等や、LGBTQ+について考える座談会
ちふれASエルフェン埼玉	第8節	1月8日	子供たちの未来に夢や希望を！	【ありのままの自分でありのままの選択を】をテーマにした選手との交流イベント
サンフレッチェ広島レジーナ	第9節	3月5日	サンフレッチェ広島レジーナ×フェムテック Femtech Japan/Femcare Japan in HIROSHIMA 2023 トークショー	女性特有の健康問題について考えるトークイベント
マイナビ仙台レディース	第10節	3月12日	これまでとこれからを“つなぐ”	「健康」「防災」「ひと」をテーマにしたイベント
アルビレックス新潟レディース	第11節	3月13日 3月19日	「世界の笑顔のために」ユニフォームでつながるウガンダの少女たちとの国境を越えた交流イベント 新潟県サッカー協会主催パラサッカーフェスティバル	国際協力機構（JICA）と連携したウガンダの選手とのオンライン交流会 パラサッカーへの理解を深めるきっかけづくりを目的としたイベント
三菱重工浦和レッズレディース	第12節	3月25日	児童養護施設について学ぼう！	児童養護施設での交流イベント
INAC神戸レオネッサ	第13節	3月31日 4月2日	六甲アイランドクリーンアップ大作戦 集まれ！未来のWEリーガー サッカー教室&食育セミナー	ゲームの要素を取り入れた、地元六甲アイランドでのクリーン活動 サッカー教室及び食育セミナー
AC長野パルセイロ・レディース	第14節	4月22日	WE ACTION DAY in 宮田・諏訪・長野	サッカー教室、クリーン活動、ポッチャ体験会
日テレ・東京ヴェルディベレーザ	第15節	4月29日	BELEZA DREAM PROJECT ～女性活躍の未来へ～	ベレーザ選手との少女サッカー教室、女性特有の健康課題に関するイベント、食と運動の重要性を学ぶイベント
ノジマステラ神奈川相模原	第16節	5月3日	ノジマステラ×青山学院大学ワークショップ	青山学院大学と連携したワークショップ
大宮アルディージャVENTUS	第17節	5月5日・6日	Let's Talk !!	クラブハウス近隣のデイサービスセンターでの交流イベント、女性特有の健康問題について考える講義、サッカー交流
サンフレッチェ広島レジーナ	第18節	5月14日	サンフレッチェ広島レジーナ×中国経済産業局（スポコラファイブ）ワークショップ	選手自身が考える「セカンドキャリア」「レジーナファン倍増計画」をテーマにしたワークショップ
マイナビ仙台レディース	第19節	5月20日	マイナビ仙台レディースを救え！宇宙危機からの脱出	夢や目標を持つこと・目指すことの大切さを感じてもらおう選手との交流イベント
ちふれASエルフェン埼玉	第20節	5月28日	子供たちの未来に夢や希望を！	「自分らしさ」をテーマにした選手との交流イベント
アルビレックス新潟レディース	第21節	6月2日 6月4日	スポーツをキャリアにするには…？続けていくには…？ 10代女子×女子プロサッカー選手のワークショップ 「女子スポーツをもっと身近に。アルビ女子のやさしいスポーツ教室！」	「女性が10代でスポーツを辞めちゃう問題」をテーマにした、女子サッカー部所属学生との講義・ワークショップ 「これからスポーツを始める10代の競技人口増加」を目的とした、新潟県内スポーツ団体と連携したスポーツ教室
ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	第22節	6月6日 6月10日	「トイレのマークはなぜ青と赤？」座談会 ② ジェフ千葉レディースサッカー教室	「トイレのマーク」をテーマとした座談会の最終回 サッカー教室

原則 2

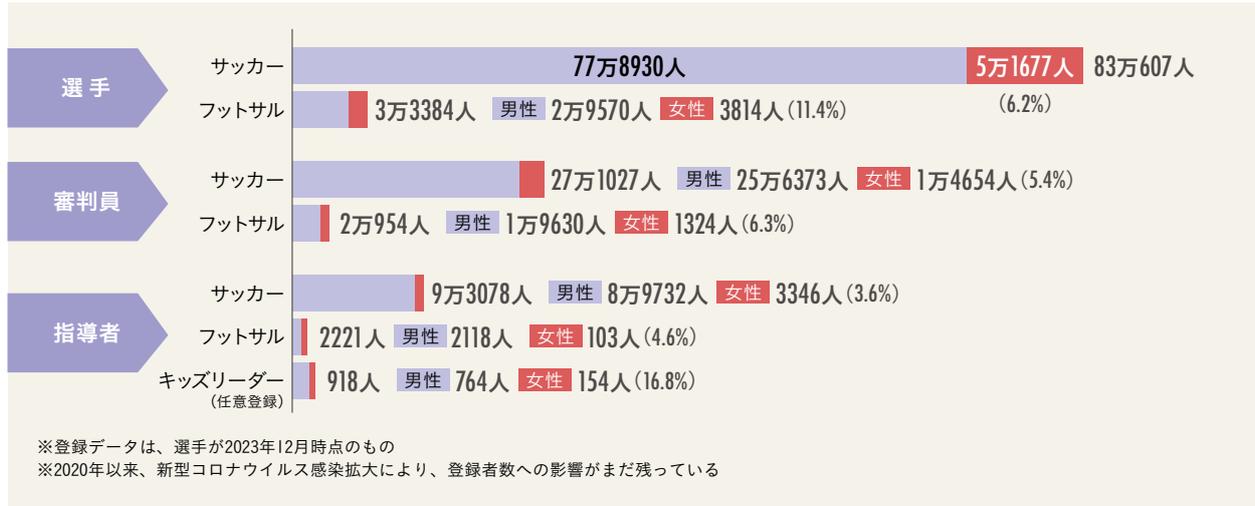


取り組み報告

# 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃

## JFA サッカーファミリーにおける女性の人数

### ▶ JFA登録者数



## JFAの役員・職員等における女性の人数

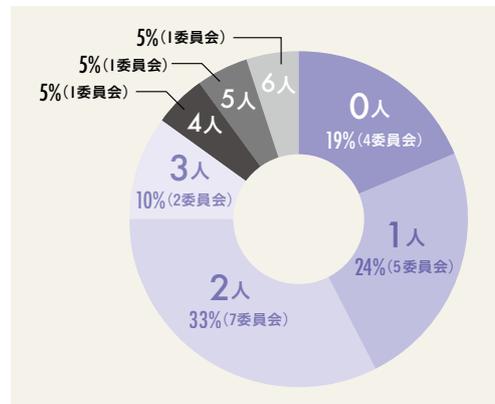
性別にかかわらず、すべての労働者に対して公平で差別のない待遇を保障すべく、JFAとWEリーグでも取り組みを行っています。JFAの役員・職員等における女性の人数や割合は以下の通りです。

※評議員以外のデータはすべて2023年12月1日時点

- 理事**  
27人：男性22人、女性5人(18.5%)  
※役員として副会長4人のうち、女性は1人(高田春奈副会長)。高田副会長は2021年1月の岡島喜久子副会長に続いて3人目の女性副会長
- 評議員**  
79人：男性76人、女性3人(3.7%)  
※2023年12月24日時点
- 各種委員会**  
21委員会：女性を含む委員会17(80.9%)  
全委員183人：男性154人、女性29人(15.8%)
- 事務局**  
管理職62人：男性52人、女性10人(16.1%)  
正職員204人：  
男性137人、女性67人(32.8%)  
臨時雇用職員53人：  
男性10人、女性43人(81%)  
※職員はJFAハウス、JFA夢フィールド、JFAメディカルセンターの3カ所に就業

- マッチコミッショナー**  
1,557人：男性1,511人、女性46人(3.0%)
- Jリーグマッチコミッショナー**  
104人：男性103人、女性1人(0.9%)
- WEリーグマッチコミッショナー**  
51人：男性49人、女性2人(3.9%)
- なでしこリーグマッチコミッショナー**  
89人：男性84人、女性5人(5.6%)  
※上記は複数リーグ兼務を含む
- ウェルフェアオフィサー**  
1064人：男性1011人、女性53人(5.0%)

### ▶ 21委員会ごとの女性の人数





## WEリーグ・なでしこリーグの役員・職員等における女性の人数

WE リーグ・なでしこリーグの役員・職員等における女性の人数や割合は右記の通りです。WE リーグにおいては役員・職員のうち半数以上を女性が占めており、なでしこリーグでも2023年4月の役員改選により、女性役員の登用が増加しています。

役員	WEリーグ			なでしこリーグ			日本フットサル トップリーグ		
	総数	女性	女性 比率	総数	女性	女性 比率	総数	女性	女性 比率
理事	15	8	53%	14	10	71%	15	5	33%
監事	3	2	67%	2	1	50%	2	1	50%



## WEリーグの女性登用の見える化

WE リーグは、クラブ参入基準において、女性登用を義務付けた日本初のスポーツ組織です。2019年に、スポーツ庁が策定したスポーツ団体ガバナンスコードはありますが、罰則規定もなく、その実施は明らかになっていません。WE リーグは、右記の3点を明らかにすることにより、組織の多様性を見える化し、WE リーグ、そしてスポーツ組織の今後に生かします。

### 【参入基準(抜粋)】

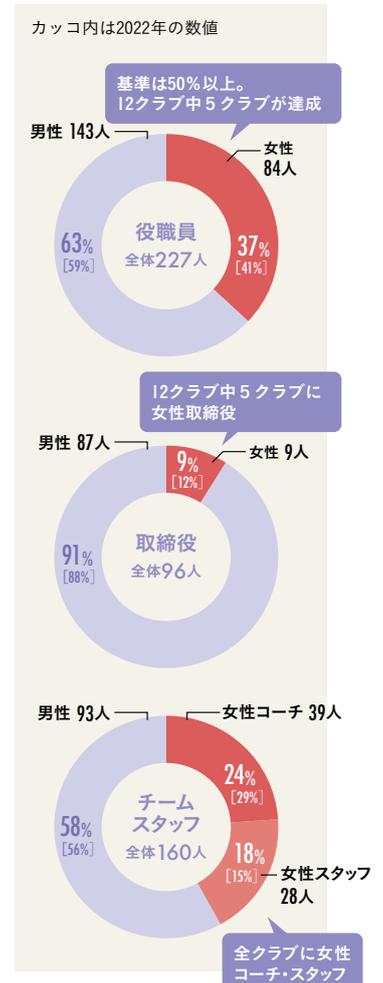
- クラブの運営にあたる法人を構成する役員・職員の50%以上を女性とする（入会から3年以内に達成すること）
- クラブの意思決定に関わる者のうち、少なくとも1人は女性とすること（取締役以上が望ましい）
- コーチングスタッフ（監督またはコーチ）の中に女性指導者1人以上を含むこと

### ▶ WEリーグの女性登用状況 (2023年10月)

	役職員			取締役			チームスタッフ			
	総数	女性 人数	女性 割合	総数	女性 人数	女性 割合	総数	女性 人数	うち 女性 コーチ	女性 割合
WEリーグ	24	15	63%	18	10	56%	—	—	—	—
マイナビ仙台 レディース	12	5	42%	4	0	0%	16	10	5	63%
三菱重工浦和レッズ レディース	8	6	75%	9	0	0%	17	7	4	41%
大宮アルディージャ VENTUS	41	16	39%	6	0	0%	9	3	2	33%
ちふれAS エルフェン埼玉	10	7	70%	10	3	30%	17	6	3	35%
ジェフユナイテッド 市原・千葉レディース	33	9	27%	10	2	20%	19	11	6	58%
日テレ・東京ヴェルディ ベレーザ	20	10	50%	4	0	0%	15	4	3	27%
ノジマステラ 神奈川相模原	10	5	50%	5	2	40%	14	7	4	50%
AC長野パルセイロ・ レディース	21	7	33%	10	1	10%	9	3	2	33%
アルビレックス新潟 レディース	9	3	33%	7	1	14%	11	5	3	45%
INAC神戸レオネッサ	7	4	57%	2	0	0%	12	3	3	25%
サンフレッチェ広島 レジーナ	49	9	18%	22	0	0%	10	4	2	40%
セレッソ大阪 ヤンマーレディース	7	3	43%	7	0	0%	11	4	2	36%
<b>12クラブ合計</b>	<b>227</b>	<b>84</b>	<b>37%</b>	<b>96</b>	<b>9</b>	<b>9%</b>	<b>160</b>	<b>67</b>	<b>39</b>	<b>42%</b>

※女性スタッフには、指導者以外のトレーナー、主務を含む ※女性コーチとは、JFAコーチングライセンスを持っている女性指導者 ※カテゴリーを兼務している場合は、主に関わっているカテゴリー、または上位のカテゴリーで換算 ※役員数の数に、非常勤の取締役、監事および現場スタッフは含まない ※強化担当者、アカデミーダイレクターは役員に含む

### ▶ 組織内における女性の割合 (2023年10月)



# WE LEAGUE WE STATEMENT 2023

WEリーグの各クラブは、理念の実現に向けたクラブの指針を示す「WE STATEMENT」を発表しており、必要に応じて毎年更新しています。



WEリーグ公式 Webサイト  
WE STATEMENT  
<https://weleague.jp/weaction/2/#club>



## マイナビ仙台 レディース

マイナビ仙台レディースは、地域における存在価値を高め、更に愛されるクラブとなるため、在仙プロスポーツチームと連携しながら、より一層仙台、宮城、東北を盛り上げる存在を目指します。



## 三菱重工 浦和レッズレディース

私たちは、理念実現のために、世界水準のサッカーを目指し、誰もが誇りと親しみを持つことができ、健全で持続可能なクラブを築いていきます。



## 大宮アルディージャ VENTUS

大宮アルディージャ VENTUSは、理念実現のために、地域とともに、新たな「風」を起こします。「新たな風」は常に新しい風を起こすことを意味します。チーム設立初年度だけでなく、地域のために、子どもたちのために、常に新しい発想を持ってチャレンジし続けます。



## ちふれAS エルフェン埼玉

ちふれAS エルフェン埼玉は、理念実現のために、子ども達の未来へ、地球環境の未来へ、女子サッカーの未来へ、さまざまな可能性を未来へつなげる活動を積極的にを行います。



## ジェフユナイテッド 市原・千葉レディース

ジェフユナイテッド市原・千葉レディースは、理念実現のために、真摯・挑戦・つなぐ・クラブと地域・ダイバーシティ・育成・感動の7つのジェフスピリッツを実践します。



## 日テレ・東京 ヴェルディベレーザ

私たち日テレ・東京ヴェルディベレーザは、WEリーグ理念実現のために、ホームタウンを中心としたエリアで愛されるクラブになれるよう、地域の活性化と発展に貢献します。



## ノジマステラ 神奈川相模原

ノジマステラ神奈川相模原は、WEリーグ理念実現のため、地元地域の星(チーム名由来)となり、性別や年代に関係なく、一人ひとりが輝ける社会、の実現を多様性ある神奈川から発信し、「日本一、輝く」クラブを目指します。



## AC長野パルセイロ・ レディース

AC長野パルセイロレディースは、WEリーグ理念実現のために、多様性を理解し、みんなが輝けるNAGANOの未来実現のため行動します。理念推進のため、選手が中心となって地域に働きかける活動をします。チームスタッフは女性を中心に採用し、人材教育にも力を入れます。



## アルビレックス 新潟レディース

私たちアルビレックス新潟レディースは、理念実現のために、ピッチの内外を問わず活躍できる人材となり、魅力あふれる新潟づくりに貢献します。ヒト、まち、モノ、文化・伝統・芸能、食、観光、気候など“新潟という地域社会そのもの”をより一層活性化させて、輝ける存在になることを約束します。



## セレッソ大阪 ヤンマーレディース

私たちセレッソ大阪ヤンマーレディースは、サッカーを核とする事業を展開し、夢・希望・感動にあふれたスポーツ文化の振興と地域社会の発展に貢献します。



## INAC神戸 レオネッサ

INAC神戸は、「For The Future」をスローガンとして、日本女子サッカーの発展のためにサッカーを通じて少女たちと夢と希望を与えられる存在となり、WEリーガークレドの実現を目指します。



## サンフレッチェ 広島レジーナ

私たちサンフレッチェ広島レジーナは、理念実現のために男子チーム、女子チーム両方持っているクラブとして男女関係なく、お互いをRESPECTし、各々がサッカーを通じて地域の皆様と共にサッカー発展に携わる人材を増やしていきます。

## **.WE LEAGUE** KEEP PLAYING

「女性は10代でスポーツをやめてしまう問題」に取り組むべく、バスケットボール（Wリーグ）、ハンドボール（JHL）、サッカー（WEリーグ）の3競技の連携で、選手同士のディスカッション、3月の国際女性デーの試合に、それぞれのリーグで同じTシャツを着用して入場しました。

#KeepPlaying



©WEリーグ



©WEリーグ

## **.WE LEAGUE** WE MEETING

WEリーグは、WEリーグの理念を共有し、相互理解を深めて信頼関係を築くことを目的に、選手全員が参加するWE MEETINGをクラブごとに、毎年開催しています。



**WEリーグ公式 Web サイト**

2023 WE MEETING

参照：<https://weleague.jp/news/1223/>

©WEリーグ



## **JFA** 女性指導者について

### ●概要

2023年11月時点で、女性指導者は全体の3.6%です（次ページ表参照）。

女性指導者については、女性選手の増加を追う形で進むものと考えますが、いずれにせよ大変低い数字であり、積極的な改善が必要です。

指導者養成は本来、男女関係なく行われるものであり、女性をことさらにとり出して取り組むことには議論がありました。しかし、長年にわたり自然にやってきた結果が、今の状態であることを考えると、一定期間は特別な対応をして変化の土台をつくる必要があります。

女性指導者が少ない理由の一つとして、ロールモデル不足が挙げられます。女子の選手たちは、子どもの頃か

らの選手経験の中で女性に指導される経験が少なく、そのために指導を行うイメージを持っていないことが多いです。また、数が少なすぎることで際立ってしまい、個々の特長は異なるのに一般化されがちでもあります。

女子サッカーの普及を進める上でも、女性指導者の存在は重要であると考えます。特に低年齢では、女子だけのチームもちろんありますが、男子に混ざってプレーをする機会が多くあります。その多くは、大勢の男子の中に少しの女子が混ざって頑張る状況です。

そのようなときに、指導スタッフに女性がいれば、子どもたちにとっては非常に心強く、参加のハードルが下がります。また、保護者の皆さんにとっても安心だと思います。特に遠征や宿泊を伴う活動ではなおさらです。

特にキッズやU-12年代の活動現場には、女性指導者がいる状態をつくり、普及を進めていきたいと考えています。女性指導者を増やすこと、現場への配置を進めることに合わせて取り組んでいます。

▶ **指導者登録数** 表中のカッコ内は前年の数

サッカー	全登録(人)	女性(人)	女性比率
S級	536	18(8)	3.2%
A級 ジュネラル	2,105	71(67)	3.3%
A級U-15	205	3(2)	1.5%
A級U-12	409	4(5)	1.0%
B級	7,748	274(256)	3.5%
C級	29,604	1,490(1,402)	5.0%
D級	51,553	1,332(1,235)	2.6%
キッズリーダー	918	154(147)	16.8%
<b>合計</b>	<b>93,078</b>	<b>3,346</b>	<b>3.6%</b>
(参考) 前年合計	86,950	3,122	3.4%

サッカー (GK)	全登録(人)	女性(人)	女性比率
GKレベル3	250	5(1)	2.0%
GKレベル2	389	6(8)	1.5%
GKレベル1	2,495	75(59)	3.0%
<b>合計</b>	<b>3,134</b>	<b>86</b>	<b>2.7%</b>
(参考) 前年合計	2,763	68	2.5%

フットサル	全登録(人)	女性(人)	女性比率
フットサル A級	56	2(1)	3.6%
フットサル B級	194	5(4)	2.6%
フットサル C級	1,971	96(75)	4.9%
<b>合計</b>	<b>2,221</b>	<b>103</b>	<b>4.6%</b>
(参考) 前年合計	1,922	80	4.2%

サッカー・フットサル 合計	全登録(人)	女性(人)	女性比率
<b>合計</b>	<b>95,299</b>	<b>3,449</b>	<b>3.6%</b>
(参考) 前年合計	88,872	3,202	3.6%

● **A-Pro ライセンス**

JFA 技術委員会との連携で「女子サッカー振興プロジェクト」の一環として、女性指導者を対象に、AFC-Pro 基準の新たなライセンスとして「Associate-Pro (A-Pro) ライセンス」を2020年より時限的に開設しました。保有者はWEリーグでの指揮が可能です。なお2023年、A-Pro ライセンス取得者の中から8人がS級コンバージ

ョンコースを受講し、S級ライセンスを取得しました。これにより、S級取得者が18人となりました。



**JFA 公式 Web サイト**

参照：[https://www.jfa.jp/women/associate\\_pro/](https://www.jfa.jp/women/associate_pro/)

● **女性監督メンタリング制度**

女性指導者の積極養成・サポートは、世界のサッカー界で取り組まれています。日本でも、WEリーグ、なでしこリーグにて女性監督が活躍する場ができてきていますが、プロあるいはそれに準ずる環境、世界でチームを預かる事例や経験が豊富でなく、多岐にわたる課題に対して力が発揮できにくい状況にあります。今回、監督という役割に特化し、サポートするため、FIFA やヨーロッパサッカー連盟 (UEFA) での取り組みも参考に、本人の希望があった場合に、経験者に相談することができる体制を整備して開始しました。

● **女性の受講促進のために女性コースの設定**

女性指導者がより指導者養成コースを受講しやすいように、女性を対象としたライセンスコースの設定を行っています (2023年度の実施状況は下表参照)。

女性だけでライセンスコースを行うことに対して、当初はレベルの低下や経験不足を懸念する声もありましたが、実際に情熱を持って受講し、吸収し成長する受講者に触れるにつけ、その先入観は一掃されています。男子と一緒に受講するメリットももちろんあり、それは選択肢として残しておきつつ、機会を増やすこと、受講しやすさを高めることに取り組んでいます。各都道府県サッカー協会 (FA) でも、女性コースの設定や、受講を促す声掛け、現場への導入など、さまざまな取り組みをしていただいています。

▶ **2023年度 女性対象ライセンスコース一覧**

コース	主催	コース	主催
B級	JFA	D級	群馬県 FA (※2)
	JFA (※1)		茨城県 FA
C級	女子学連		広島県 FA
	茨城県 FA		岐阜県 FA
D級	愛知県 FA		岡山県 FA
	長崎県 FA		山形県 FA

※1：2月と7月に計2回開催 ※2：計2回開催

## ▶ A-Proライセンス開設の目的

### 日本女子サッカーの継続的な発展に向けて

#### 1. 女子/女性のサッカー競技人口の増加

- プレー機会減少によるサッカー離れを生み出さないため、女子委員会が行う普及施策を“ALL JFA”として取り組む
- 女子/女性が継続的にサッカーを楽しむことができる環境を整備し、サッカーを長く楽しみ、応援してくれる女子/女性を増やす



#### 2. 次世代を引っ張るリーダーの育成

- WEリーグ立ち上げで監督になり得るだけでなく、後進指導者たちを育て導いていくロールモデルの育成
- インターナショナルな分野でも活躍できる人材の育成

#### 新たな施策に着手

女性指導者育成の突破口としてS級に準ずるライセンス「Associate-Pro(A-Pro)ライセンス」を“時限的”に創出

女子サッカーのみならず、日本サッカー全体の継続的な発展へ

- 振興プロジェクト：JFA 技術委員会と連携して2020年から実施

- 女性を対象にした指導者養成コース

A級ライセンス：2021年から実施

B級ライセンス：2018年から実施

C級ライセンス：2017年から実施

※ JFA、47FA、WE クラブ、女子学連

D級ライセンス：2017年から実施

※ なでしこリーグ新人研修、JFA、47FA、女子学連

- WEリーグ C 級ライセンス研修

女性指導者養成およびサッカー理解を深めるために、WEリーグのプロ契約選手はC級ライセンスの取得が求められています。クラブごとに講習会が開催され、これまでに11クラブ196人のWEリーガーがC級ライセンスを取得しました。

- 上位ライセンスに向けたスキルアップ研修

上位ライセンスへのチャレンジを促すべく、2016年から女性指導者スキルアップ研修会を実施しています。

特に上位ライセンスにチャレンジするためのトライアル指導実践に自信を持って臨めることを目指し、指導実践を中心に研修しています。

- 女性チューター(旧インストラクター)の追加2枠の設定

C級・D級の女性チューターは、2019年以前で550人中8人(1.5%)しかいませんでした。女性指導者の養成を積極的に進める人材として、47FAのチューターに、各2枠の女性チューター枠を設定しました。2023年11月現在、C級・D級の女性チューターは、全チューター651人中44人(6.8%)となっています。

今後の女性チューター数の目標は100人です。女性チューターが今後経験を積み、上位ライセンスのチューターになることも期待されます。指導者養成の重要なパートを占める人材となってもらうための準備です。

#### ▶ 2023年度 女性チューター数

	全体総数		女性比率
	総数	女性	
C級・D級チューター	651	44	6.8%
B級チューター	159	3	1.9%
A級ジェネラルチューター	15	1	6.7%

- 今後に向けて

多くの女性にとってはなかなか指導を自分事としてい

メージしにくく、受講者が集まりにくい状況があり、「ニーズがないのでは」と言われることもあります。しかし、現在活躍している女性指導者の多くは、恩師や周囲の指導者に声を掛けられ、励まされ、背中を押されて取り組み始めたケースです。ぜひ周囲の指導者の皆様のご協力をお願いします。

また、今後の課題として、ライセンスの失効・退会を減らしていくことも大きなテーマです。失効・退会が多いことは女性に限ったことではありませんが、ぜひ指導を長く続けてもらえるように、出産・育児などで一時的に離れてもまた再開してもらえるように、制度などを検討していきます。

### ● Fリーグでの活躍

Fリーグの湘南ベルマーレには、Fリーグで女性として初、そして現在も唯一となるトップチームのコーチとして藤田安澄さんが活躍しています。大学まではサッカーに取り組み、卒業後に本格的にフットサルを始めました。2004年に第1回全日本女子フットサル選手権大会優勝に貢献し、翌年も連覇。2007年より活動の場をスペインへ。同年に初めて構成されたフットサル日本女子代表ではキャプテンを務め、アジアインドアゲームズ（現アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ）で連覇。2011年に引退し指導者の道へ進みました。JFA、

AFCの指導者ライセンスを取得し、女性初のチューターにもなり、後進の育成に従事。2021年、フットサル日本女子代表コーチに就任しました。

### ▶ 女性監督・コーチ

JFAナショナルコーチングスタッフ	<b>3</b>
WEリーグ 2023/24シーズン監督	<b>2/12</b>
なでしこリーグ 2023シーズン監督	<b>5/22</b>
Fリーグディビジョン1 監督・コーチ	<b>1/45</b>
日本女子フットサルリーグ 監督・コーチ	<b>8/39</b>

### ▶ 全日本大学女子サッカー連盟〈2023年登録状況〉

チーム数	<b>88</b> チーム
登録者数	<b>2,205</b> 人
監督内訳	男性： <b>66</b> 人 女性： <b>17</b> 人 (監督不在2チーム)

※2023年10月31日時点

### ▶ 女子学連指導者ライセンス取得者数

C級	<b>97</b> 人	D級	<b>42</b> 人
----	-------------	----	-------------

### ▶ 女子学連審判登録者数

2級	<b>7</b> 人	3級	<b>131</b> 人	4級	<b>1,100</b> 人
----	------------	----	--------------	----	----------------

## JFA 国際的に活躍する女性指導者

指導者ライセンスの上位ライセンスを取得したり、JFA公認指導者の海外派遣を活用したりして、各国の代表チームを率いるなど国際的に活躍する女性指導者もいます。

### 本田美登里 (S級)

2022年～ ウズベキスタン女子代表監督

### 鈴木木乃実

2023年～ U-20/U-17北マリアナ諸島代表監督

### 豊田奈夕葉

2023年～ ラオス女子代表監督

### 深野悦子 (審判指導者)

#### FIFAインストラクター、AFCインストラクター

2023年1月24日～2月2日 / カタール  
FIFA女子ワールドカップセミナー

2月28日～3月3日 / ウルグアイ  
FIFA女子ワールドカップセミナー

4月23日～5月1日 / タジキスタン  
AFC U17女子アジアカップ予選

3月27日～31日 / スペイン  
FIFAテクニカルインストラクタセミナー

6月27日～7月3日 / ベトナム、フランス  
FIFA女子ワールドカップチームミーティング

7月7日～8日2日 / オーストラリア  
FIFA女子ワールドカップ オーストラリア & ニュージーランド2023

## 山岸佐知子（審判指導者）

### FIFAインストラクター、AFCインストラクター

2023年1月24日～2月2日／カタール  
FIFA 女子ワールドカップセミナー

2月7日～10日／マレーシア  
AFC 女子エリートレフェリー &  
アシスタントレフェリーコース

3月4日～12日／ベトナム  
AFC 女子アジアカップ予選

7月9日～17日／北マリアナ諸島  
AFC レフェリー STAR プログラム

7月22日～28日／韓国  
FUTURO III

9月20日～10月7日／中国  
第19回アジア競技大会（2022/ 杭州）

## **WE** あらゆる場面での女性の活躍

WE リーグでは、審判員やスタッフ、また意思決定者の女性登用を推進するだけでなく、試合に関するあらゆる場所での女性の配置を推進しています。実況や解説、

中継のディレクター、カメラマンなど、これまで女性があまり関わることの少なかったポジションで、女性が活躍しています。

## **JFA** 女性審判員について

### ● 審判員登録数

2023年11月1日時点で、女性審判員登録数は下表の通りです。

	登録(人)	女性(人)
サッカー審判員	271,027	14,654
フットサル審判員	20,954	1,324
サッカー審判インストラクター	2,938	130
フットサル審判インストラクター	584	28
合計	295,503	16,136

※女性の割合は5.5%

### ● 女性審判員の養成

#### 〈 審判女子トレセン 〉

女子審判員の普及・育成を目的とする、各都道府県で開催する審判女子トレセンにおいて、JFA として一部費用の補助や、JFA 審判インストラクターを派遣する仕組みを設けています。

その際、特に普及の場合は女性インストラクターの派遣を希望するケースが多く、可能な限りそれに応じています。男性インストラクターが多い中で、女性を派遣することで、自分でもできると感じてもらえる存在として好評です。

#### 〈 全日本大学女子連盟との協働 〉

全日本大学女子サッカー連盟との協働企画として「審

判員スキルアップ研修会」を開催しました。2019年の第1回開催以来、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止が続いていましたが、2回目の開催が実現しました。全日本大学女子サッカー連盟より加盟大学サッカー部に募集をかけ、この研修会に興味を持った審判資格（4級～2級）を保有している13人、そしてサポートメンバーとして現役審判員のOG 2人が参加し、JFA 審判委員会より派遣された審判インストラクター2人が各プログラムを進行しました。この研修会の目的でもある「サッカーへの関わり方は選手や指導者だけではなく、他にも選択肢があることを知ってもらうこと。そして、生涯にわたりサッカーを楽しめるような仲間の拡大」は達成することができました。今後も連盟と協力しながらサッカーに関わる人材の育成に取り組みます。

### ● 活躍する女性審判員

WE リーグを担当する審判員は、国内トップの女子審判員です。なでしこリーグの主審を担当する審判員も同じく国内トップの女子審判員になります。また、Jリーグでは主審1人（山下良美）、副審2人（坊蘭真琴、手代木直美）が担当しています。サッカー国際審判員（女子）は、主審4人、副審4人、フットサル3人が登録されています。

FIFA 女子ワールドカップオーストラリア & ニュー

ジーランド2023では、山下良美、坊菌真琴、手代木直美の3人が選出され、日本人のトリオとして初めて開幕戦を担当しました。

### 【FIFA女子ワールドカップでの担当試合】

グループステージ

2023年7月20日 ニュージーランド vs ノルウェー(開幕戦)

主審：山下良美 副審：坊菌真琴、手代木直美

7月27日 アメリカ vs オランダ

主審：山下良美 副審：坊菌真琴、手代木直美

7月30日 ドイツ vs コロンビア

第4の審判員：山下良美

8月1日 ハイチ vs デンマーク

副審：坊菌真琴

ラウンド16

8月6日 オランダ vs 南アフリカ

主審：山下良美 副審：坊菌真琴、手代木直美

決勝

8月20日 スペイン vs イングランド

第4の審判員：山下良美

### 【男子国際大会での担当審判員】

2023年10月4日/香港

AFC チャンピオンズリーグ2023

グループステージ グループF

主審：山下良美 副審：坊菌真琴、手代木直美

12月14日/マカオ

AFC カップ

グループステージ グループI

第4の審判員：山下良美

## JFA 障がい者サッカーでの女子日本代表活動

障がい者サッカー各種目において、女子日本代表が国際大会・試合で活躍しています。

カテゴリー	2023年国際大会/試合	開催地	結果
CPサッカー 女子日本代表	国際親善試合 Women's CP-FOOTBALL International Friendly Match 日本対オーストラリア	日本(大阪府)	0勝3敗
	IFCPFアジア・オセアニア CPサッカー選手権2023	オーストラリア	2位
知的障がい者サッカー 女子日本代表	アラブ首長国連邦との交流親善試合	日本(千葉県)	ユニファイド: 2勝0敗 知的: 1勝0敗
		アラブ首長国連邦	1勝1敗1分
ブラインドサッカー 女子日本代表	IBSA ブラインドサッカー 女子世界選手権 2023	英国	2位
デフサッカー 女子日本代表	第4回ろう者サッカー世界選手権大会	マレーシア	5位
デフフットサル 女子日本代表	アジア太平洋ろう者フットサル選手権大会	イラン	優勝(大会2連覇)
	第5回ろう者フットサル世界選手権大会	ブラジル	優勝

### 原則 3



## 取り組み報告

# 健康、安全、暴力の撤廃

## JFA | .WE<sup>LEAGUE</sup> ウェルフェアオフィサー制度

女子サッカーに関わる各リーグ・連盟で、リスペクト、セーフガーディングにより積極的に取り組んでいくべく検討しています。リスペクトとフェアプレーの精神あふれる環境を醸成し、好ましくない行動や状況においても、新しい視点から気づきを伝えることで、“ウェルフェア”環境が推進されることを実践しています。

JFA コーチ女子担当は、2021年の研修会でウェルフェアオフィサージェネラル養成講習会を受講し、2023年に新規養成・更新をしました。なでしこリーグは、2023

年度より全チームにクラブ・ウェルフェアオフィサーの設置を義務付けました。全日本大学女子サッカー連盟では、全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）において、学生によるマッチ・ウェルフェアオフィサーを試行しました。



### JFA公式 Web サイト

参照：<https://www.jfa.jp/respect/>

## JFA | .WE<sup>LEAGUE</sup> リスペクト・フェアプレー

FIFA 女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023において、なでしこジャパンはリスペクトあふれる行動で話題となり、またフェアプレー賞を受賞しました。代表チームに象徴されるように、リスペクト・フェアプレーは、世界から一目置かれる日本サッカーの重要な価値であり、守り抜いていきたいものです。

2023年9月のJFA リスペクト・フェアプレーデイズにおいては、各リーグでリスペクト宣言、リスペクトバ

ナー掲出、場内アナウンス、チームの公式 Web サイトや SNS での活動の発信を行いました。また2022年より、女子の育成年代の大会（JFA U-18女子サッカーファイナルズ、JFA 全日本 U-18/U-15女子サッカー選手権大会）において、リスペクト・フェアプレーを共有すべく、キャプテンミーティングの開催、リスペクト宣言ボードの作成、キャプテンのスピーチなど、リスペクトセレモニーを実施しています。

### ▶ なでしこリーグでの実施事項

内容	対象	実施期間	備考
キックオフ前宣言	なでしこリーグ 1部の12チーム	第17節 第18節	選手・審判団入場後、両チームの代表選手による宣言
リスペクトバナー掲出		4.5m× 3mのバナーを試合会場に掲出	
場内アナウンス	なでしこリーグ 1部・2部の全チーム (22チーム)	2023年 9月1日 ～ 10月1日	JFAリスペクト・フェアプレーデイズについて、試合会場内でアナウンスを行う
活動の発信		チームの公式WebサイトやSNSで発信	

**JFA**

## FIFAが女子健康・ウェルビーイング・パフォーマンスプロジェクト発信

さまざまな分野の研究や開発において、女性のデータが存在せず、それはサッカーのパフォーマンスについても同様です。長きにわたり、女性のトレーニングは男性の縮小版として実施されてきました。国際サッカー連盟（FIFA）の女子サッカー部門として、女性アスリートの心身の特徴、ゲームの特徴を明らかにし、女性アスリートを女性として準備・トレーニングして健康を守ることを進めていくべく、プロジェクトを組んで発信に至りました。今後、さらに研究を進めていきます。日本でもこの情報を広げ、みんながアクセスでき活用できるようにしていきます。



**FIFA 公式 Web サイト**

参照：<https://www.fifa.com/womens-football/fifa-female-health-project-snapshot>

**JFA**

## ピンクリボン運動への取り組み

JFA は、WE リーグ、なでしこリーグと共に、乳がんの啓発活動である「ピンクリボン運動」に賛同し、「ピンクリボン月間」となる10月に行われる各種事業において同活動の啓発に取り組みました。2023年度は情報発信を強化し、各カテゴリーの日本代表選手からのピンクリボン賛同コメント動画を発信しました。

- SAMURAI BLUE(日本代表)・菅原由勢選手が代表してメッセージ
- ビーチサッカー日本代表・上里琢文選手、山田貴仁選手、松田康佑選手からメッセージ

### [ ピンクリボンバッジを着用 ]

- SAMURAI BLUE(日本代表)：10月の活動期間中
- ビーチサッカー日本代表：10月の活動期間中



**JFA 公式 Web サイト**

参照：[https://www.jfa.jp/social\\_action\\_programme/pinkribbon2023/](https://www.jfa.jp/social_action_programme/pinkribbon2023/)

ピンクリボンバッジを着用するSAMURAI BLUEの菅原由勢選手

©JFA



### [ 各カテゴリーの日本代表選手からのピンクリボン賛同コメント動画を発信 ]

- なでしこジャパン(日本女子代表)を代表し、田中美南選手、猶本光選手からメッセージ

### ● 出産・育児を経た復帰

休止を除く54人の女子1級審判員のうち、女子1級になってから出産を経て復帰した審判員は4人います。以前は、出産した後の活動継続が難しいのではないかと考えられていましたが、復帰を果たし活動している審判員を見て、これから出産を考えている審判員の選択肢が広がりました。

宿泊を伴う研修会では、お子さんを連れて参加するケースや、試合会場へお子さんを連れて行くケースもあります。より活動しやすい環境整備のために、関係する機関やリーグと共に、今後はさらに踏み込んだサポートを実現していくことが課題です。

### ● 産休制度

出産に伴う産休制度が以前はありましたが、今は休止制度の中に含まれるようになりました。理由は、実際には1年間の産休の範囲で収まるケースは少なく、複数年にわたって活動を休止する必要があるため、現行の休止制度に含めた方がより柔軟性が持てるからです。

### ● 復帰に向けてのサポート

審判員は通常、国内女子のトップリーグを担当します。

そのリーグを担当するためには、フィットネステストに合格する必要があります。出産から復帰をする審判員も同様の条件になります。ただし、産後復帰を目指す審判員のほとんどが苦勞しているため、下記のサポート制度をつくりました。なお、オンライン会議システムの普及もあり、指導内容によってはオンラインでの対応も可能としています。

#### 〈サポート条件〉

- 休止をしている場合、休止解除をしてからサポートが受けられる
- サポートが利用できる期間は、最初のサポート利用時から1年間まで
- サポートが利用できる回数は全部で3回のイメージ
- ① トレーニングスタート時、② 途中経過、③ テスト前
- トレーニングサポートは、専門性が必要な観点から専門知識のある審判担当のフィジカルマネージャーの協力を仰ぐが、JFA 審判委員会が認めた地域にいるフィットネスコーチの協力を得る場合もある（子どもを連れての長距離移動をせずともサポートを受けられるようにするため）
- サポートに関わる指導者の経費は JFA が負担

JFA の指導の下、所属チームと地域の専門家（チームドクター、トレーナー、近隣大学等）に対し、国立スポーツ科学センター(JISS) スタッフにより、妊娠期・産後期のサポートの仕方と包括的な支援体制の伝達を受けました。伝達を受けた所属チームと地域の専門家で、妊

娠・出産を経た対象選手の活動拠点において、競技復帰への支援を実施しました。

- **支援体制整備**：所属チーム、JFA、JISS のスタッフと、選手の抱える課題に合わせ、重点的にサポートを実施する分野や支援体制等を検討しました。

- **メディカルチェック**：医療従事者であるスポーツドクター（内科、整形外科、婦人科）の診療や、理学療法士による対象選手の機能評価を実施しました。

- **トレーニングサポート**：妊娠経過や出産状況に合わせたトレーニングをサポートしました。分娩による身体

写真提供：JISS



国立スポーツ科学センター(JISS)で実施している妊娠期・産後期のサポート

へのダメージを抑えて良い出産をすること、妊娠による筋機能低下の抑制、競技復帰に向けた体力の向上、産後特有の身体的課題の改善等を目標としました。特に強調され重要視されている産直後には心身の評価を行い、トレーニングプログラムを実施しました。

- **栄養サポート**：妊娠期・授乳期の栄養・食事管理、ウエイトコントロールや産後の競技復帰に向けた食環境整備、競技復帰に向けた体づくりについての栄養相談

を実施しました。また、子どもへの授乳や離乳を含めた栄養管理に関するアドバイスを行いました。

- **心理サポート**：対象選手の心身状態の把握、競技復帰において対象選手が抱える課題の明確化を目的に、心理検査を実施しました。選手が自身の状態を認識することにより、支援の必要性を受容し、適切な支援（早期介入やカウンセリング等）を行うことができます。

## **WE LEAGUE** 託児施設の設置

WEリーグでは、他のリーグにはない「託児所の確保」を参入基準として設定しました。小さいお子さんのいる方でも最後まで試合を楽しく観戦していただけるよう、各クラブがお子さんを安心して預けられる託児施設をホームスタジアムにて運用しています。託児施設の設置は、産後復帰した選手だけでなく、ファン・サポーター、クラブ関係者、運営スタッフなど、WEリーグに関わる

全ての方のことを考えたものとなります。2023-24シーズンでは第5節終了時点で、34の方が利用しました。各クラブの託児施設については、WEリーグ公式Webサイトをご覧ください。



**WEリーグ公式 Web サイト**

参照：<https://weleague.jp/news/1226/>



©WEリーグ

ちふれASエルフェン埼玉では託児付き観戦シートを販売し、安心して観戦できる環境を提供している

WEリーグでは試合開催日にスタジアム内に託児施設を設けている



©WEリーグ

## 原則 4



### 取り組み報告

# 教育と研修



## JFA/WEリーグ女性リーダーシッププログラム

### ● 第4期を開催

JFAとWEリーグは、2020年に「サッカー界・スポーツ界を牽引する女性役員・経営層の育成」を目的に、本プログラムを開設しました。

2023年6月～10月には第4期を開催し14人が修了、開講から4年間でこれまで50人の修了生を輩出しました。開設当初から掲げている本プログラムの柱は「女性とジェンダー理解」「マインド改革」「経営リテラシーの獲得」の3点です。さまざまな領域で活躍される講師をお招きし、これまで女性が社会の中で置かれてきた立場や役割の歴史をひも解きながら、その結果、女性が抱えやすいと言われている心理的な障壁や内面的な特徴に自ら向き合い、それを乗り越えていく方法を仲間と共に学びます。そして、経営層として必要な実務スキルに加え、サッカーやスポーツの価値を今一度みんなで考え、最終課題の発表につなげています。

受講生の所属は、47都道府県サッカー協会（FA）、WEリーグクラブ、なでしこリーグクラブ、Jリーグクラブ、リーグや連盟など多岐にわたり、男子サッカー、女子サッカー、フットサル、障がい者サッカーなど競技の垣根を超えたメンバーが共に学んでいるのも、本プログラムの大きな特徴です。ここで得たネットワークをそれぞれの業務・事業に生かし、新しい日本サッカーの未来を生み出すことを期待しています。意思決定層に、女性を含めたさまざまな背景を持った人が参画することは、日本サッカーの成長にとって欠かせません。JFAとWEリーグは引き続き、女性リーダーの育成に取り組んでいきます。



### JFA公式 Webサイト

参照：[https://www.jfa.jp/social\\_action\\_programme/womens\\_empowerment/](https://www.jfa.jp/social_action_programme/womens_empowerment/)

### ● 全体概要

#### [ 目的 ]

サッカー界・スポーツ界を牽引する女性役員 / 経営人材を育成する。

#### [ 主催 ]

JFA、WE リーグ

#### [ 受講資格 ]

次の事項のいずれかを満たし、今後組織での経営人材を志す女性。

- 9地域/47都道府県サッカー協会において、副会長以上の役職に就く者、またその候補者
- WEリーグクラブの経営人材候補者
- その他、サッカー・スポーツ関連団体における経営人材候補者

#### [ 研修内容 ]

- 1カ月ごとに週末の集合研修として、4回のモジュールを実施
- 間の学習
- アウトプット：個人課題・グループ課題の発表
- シンポジウム
- プログラム終了後のフォローアップ

## 特別座談会

# 副会長シスターズ

～ JFA/WEリーグ女性リーダーシッププログラムを受講して～

### 【座談会参加者】

- 今井純子 (JFA 女子副委員長)
- マキナリー浩子 (長野県FA副会長)
- 高砂佳世 (兵庫県FA副会長)
- 中西朋子 (和歌山県FA副会長)
- 三好公子 (愛媛県FA副会長)

約5カ月間にわたって開催した

「2023年度 JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム」が終了しました。

今回は第4期となる本プログラムを受講した、都道府県サッカー協会(FA)の女性副会長の4人に、プログラムの感想やそこで得たもの、今後に向けた抱負などについて話を伺いました。

●実施日：2023年12月16日

**今井** 第4期のJFA/WEリーグ女性リーダーシッププログラムを受講いただき、ありがとうございました。4人を「副会長シスターズ」と呼ばせていただきますが、プログラム全体を明るく引っ張っていただいたことで、とても良いプログラムとなりました。まずはそれぞれ、副会長になったきっかけ、またプログラムを受講して感じたことをお聞かせください。

**マキナリー** 長野県FAの役員改選の際、「多様性を目指した新しい組織編成をする」ということで声を掛けていただきました。それまでサッカーとはあまり関わりがなかったので、最初はとても不安で、理事会でもあまり発言することができていませんでした。自分の役割が分からなかったのですが、今回のプログラムを受講することによって、受け身ではなく自分からできることを発信していかなければならないと感じ、自らの姿勢がすごく変わりました。

**高砂** 私の場合は父が兵庫県FAの会長を長年務めていたということもあり、幼い頃からサッカー選手などの関わりがずっとありました。ただ組織的に関わったことは全くなく、2022年の役員改選時にお声掛けいただき、副会長に就任しました。プログラム受講前は組織への関わり方が分からなかったのですが、今では、マキナリーさんのように「自分から発信していかなければ何も変えることができないんだ」と考えるようになりました。特にプログラム受講以降は、サッカー界での女性の活躍に非常に目が向くようになり、そこに協力していきたいという気持ちになっています。

またジェンダー問題に関して、私自身は

企業で働いてきた中で特に問題を感じていなかったのですが、最初はアレルギーがあり、自分の中でモヤモヤしたものがありました。ただ、そういうことを知っていかなければ先に進まないということ。それと皆さんが女性のサッカーを盛り上げるために苦労してきた歴史を知ることによって、やはりジェンダーを学んでいかなければいけないと認識しました。

**中西** 私が所属する和歌山県FAでは、FA内に課題があり、役員改選のときから副会長を務めさせていただいています。もともと女子委員長や理事を務めていたので、今は兼務で活動しています。大学からサッカーを始めて、選手として、また指導者や国民体育大会(国体)のスタッフなどとして、ピッチ上でたくさん関わってきました。自分がプレーしてきた立場で物事を考えがちで、サッカーをしている人が頑張っているという感覚でいたのですが、ここにいる皆さんのように選手ではない方々がこんなにもサッカーに対して熱を持って支えて、関わっていることに、良い意味でカルチャーショックを受けました。

ジェンダーの問題に関しては、自分自身がつらいと感じたことはあまりありませんでした。ですが、今回のプログラムで、構造上の問題をあらためて学び、まさにそうだなと感じ、意識の改革が起こりました。そして、いろいろな方の話を聞かせていただき、ポジティブに物事を捉え、できない理由ではなくどうすればいいのか、誰と一緒にやればいいのか、そして自分自身が楽しんで取り組む、そうしたことが大事だとあらためて感じているところです。

**三好** 私は地元・愛媛FCの男子チームを応援している中で、愛媛県FAの前会長の豊島吉博さんと知り合う機会がありました。豊島さんが女性理事を積極的に登用しようとしているときに、「ぜひ副会長に」ということで声を掛けていただきました。正直なところ、とても驚き、戸惑いましたが、



左からマキナリーさん、三好さん、高砂さん、中西さん

経験はないけれどできることはあると考え、引き受けることにしました。現在は副会長の仕事と同時に、JFAアカデミー今治のスクールマスターとして、女子中学生を育成するスタッフのサポートをしています。

プログラム受講にあたっては、こうした役割を果たす上でモデル像がはっきりしていなかったので受講してみようと思いましたが、実際に受講してみると、14人の受講者の皆さんが個性豊かで、一つのモデルなんてないのだと気づきました。普段はFA内での活動で外部に触れることがあまりないのですが、さまざまな経験や実績の

ある素晴らしい人たちと出会い、また横のつながりができたことがとても大きかったです。

**今井** プログラムで印象に残っていることをそれぞれ教えてください。

**マキナリー** 皆さんの前向きな情熱に対して、大きな刺激を受けたことですね。初めて会ったメンバーで、地域も立場も違ったのですが、みんなで何かムーブメントを起こしていこうという仲間意識が生まれ、私自身もエネルギーをもらいました。受講する前はFAの中での自分の存在の薄さを感じていたところでしたので、光が見えてきて軸ができました。

グループ課題では、全国の副会長の皆さんの話を伺いました。プログラムの1期生から4期生の縦軸と、北海道から九州までの横の広がりという、縦と横のつながりに加えて、「情熱」という非常に重要なエッセンスを持ってやっていること、自分がその中の一員として存在していることに、と



©JFA/PR

てもワクワクするものを感じました。

**高砂** 私も、組織にどのように関わっていけばいいのか、会議などで何を言えいいのかなど、自分の役割に対して迷いがありました。その中で、女性活躍のために一生懸命頑張ってきた人、頑張っている人の姿に触れ、感銘を受けました。FAの理事会での報告を聞いているだけでは見えてこないけれど、それぞれの立場でこうして活躍しているということが具体的に理解でき、そうした思いや取り組みに応えていきたいと考えるようになりました。

**中西** 私は「社会構造をスポーツで変える

ことができる」という言葉がとても印象に残っています。また、扉は開いた、けれど「やろう、やろう」と思って何もなかったらすぐに閉じてしまうということ。だからこそ、アクションを継続していき、広がっていくこと、巻き込んでいくことが、女性にとっては特に必要だということがよく理解できました。

**三好** 今回のプログラムでは、全日本女子野球連盟会長の山田博子さんも受講していたことがとても良かったです。スポーツ界全体で混ざり合う良さを感じさせていただきました。

**今井** プログラムを受講し終えて、現在感じていることは何でしょうか。

**マキナリー** 会社経営の立場からFAという組織に入ること、組織運営や女性活躍の部分で期待をされているのだと思っています。数人の理事へのヒアリングから、課題が見えてきたのですが、すでに長い歴史の中で出来上がっているものに対して、リスペクトをしながら変化させていくことの難しさを感じています。けれど、一人一人が夢を実現できる幸せな組織にしたいので、皆さんの力を借りながら役割を果たしていきたいと思います。

**高砂** 同感です。プログラムで貴重な体験をして、また刺激を受け、モチベーションを高めて、FAに戻った際に温度差を感じました。一回の刺激だけではなく、何かしら継続することで、モチベーションなどをキープしていきたいと考えています。何かを発信していかなければいけないという思いから、12月の兵庫県FAの理事会では今回のプログラムのグループ課題の内容を報告しました。継続していくことで少しずつ変わっていくと信じていますし、一人ではなかなか難しいですが、多くの協力者をつくって温度差なくやっていけるようにしたい。男性の感覚だけの問題かというだけではなく、女性の方もまだまだ認識が薄い方も多いため、そちらにもアプローチしていく必要性を感じています。

**中西** さまざまな方の関わりにより、和歌山県内では女子サッカーの存在が少しずつ認識されるようになってきたと感じています。ただ、今回のプログラムを終え、あらためて組織を見ると、非常に同質な集団であることに気がきました。過去から情熱を

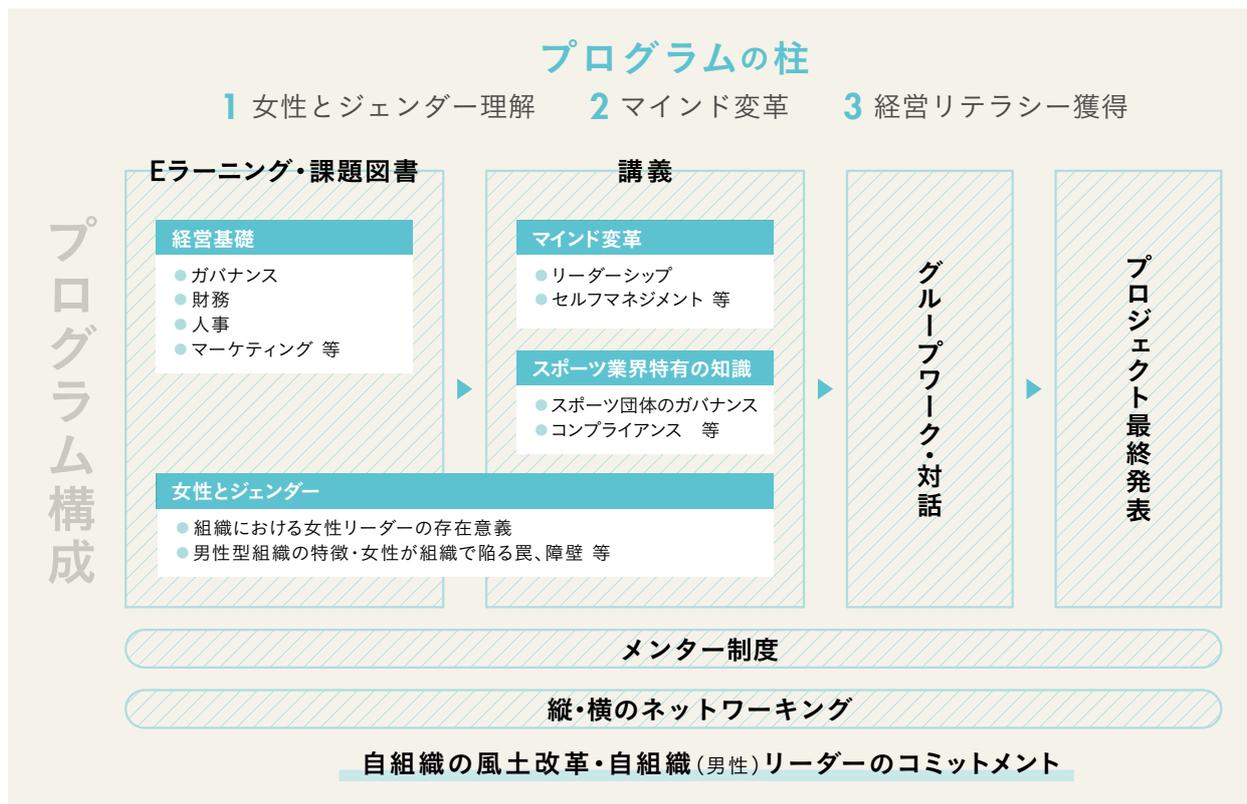
持って取り組んできていただいて、阿吽（あうん）の呼吸でできる良さもあると思いますが、もっと広がりや発展性を持たせるためには、新しい風や、多様な意見が入ってくる必要があります。そうした発信や巻き込みをどのようにしていくかについて考えています。

サッカーに関わりたいという思いを持って頑張っている人たちの活動について、もっと多くの人に知ってもらえるように、自分の立場で発信していければと思います。物事を一気に変えることは難しくても、自分に近いところから、自分も楽しみながら進めていければと感じています。

**三好** FAの関係者と話す機会を数回設けました。愛媛県FAでは女性理事が7人いて活発ではあるけれど、受け身では存在意義がありません。「FAのアウトーズを良いものにする」という具体的なテーマを持って取り組むようにしており、会うたびにさまざまな話をしています。難しいことやジレンマもありますが、ぜひやり遂げたいと考えています。女性理事を7人加えていただいた前会長の豊島さんには感謝しています。「まずは数をそろえ、その後は自分たちで考えてやりなさい」ということだと受け止めています。副会長として、他の理事の皆さんを含めて任期の中でどのように活動していくか、しっかり考えていきたいと思っています。

**今井** ありがとうございます。プログラムの受講後にこうして話すことも大事ですね。置かれている立場や環境、そして進めたいことは必ずしも簡単なことではないですが、みんなが全国で頑張っている。それらを知ることで、また自分自身の意識も整理できると思います。少し学んで意識が高まると、さまざまなことが気になり出して、また難しさも生まれてきます。長い歴史の中に根差してきた文化や社会構造は、そう簡単に変化させることができませんし、それぞれ悩むことや難しさを感じることも多いと思います。だからこそ仲間を増やしていくことが大事で、このプログラムも4期にわたって開催し、そうした仲間が増えてきたことに心強さを感じています。少しずつ変化は起こり始めています。後ろに続く人たちのためにも、みんなで引き続き頑張っていきたいと思います！

## ▶プログラム内容



## ▶女性リーダーシッププログラム受講者

	氏名	所属先	役職	氏名	所属先	役職
1期生	穴吹侑子	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	係長	大岩真由美	公益財団法人北海道サッカー協会	理事
	江川純子	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ	事務局長	神一世子	一般社団法人神奈川県サッカー協会	理事
	小野寺志保	大和シルフィード	トップチームGKコーチ	井手祥子	公益財団法人広島県サッカー協会	
	加藤久美子	AC長野パルセイロ・レディース	取締役	山岸佐知子	公益財団法人日本サッカー協会	理事
	小林美由紀	公益財団法人日本サッカー協会 ジェフユナイテッド市原・千葉レディース 公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ	女子委員 マネージャー 理事	高橋薫	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	次長
	巽由香利	一般財団法人日本フットサル連盟	理事	近藤絵梨佳	サンフレッチェ広島レジーナ	
	手塚貴子	公益財団法人日本サッカー協会	理事/女子副委員長	船越裕美	湘南ベルマーレ	部長
	初矢千秋	伊賀FC/ノース三重	事務局長	清水万理	一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ	
	宮崎美由紀	一般社団法人佐賀県サッカー協会	副会長	伊藤由佳	セレッソ大阪	主任
	山本亜里奈	アルビレックス新潟レディース	トップチーム兼 アカデミー担当マネージャー	小亀多佳	公益社団法人日本プロサッカーリーグ	部長
2期生	鷺津裕美	公益財団法人北海道サッカー協会	副会長	風間理佐	一般社団法人日本女子サッカーリーグ	
	渡辺典子	公益財団法人埼玉県サッカー協会	副会長	安奈希沙	一般社団法人フットサルクラブSAICOLO (さいたまSAICOLO)	理事
	井上有希江	公益財団法人愛知県サッカー協会	理事/女子委員長	高砂佳世	一般社団法人兵庫県サッカー協会	副会長
	漆間亜美香	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ	管理部部長	マキナリー浩子	一般社団法人長野県サッカー協会	副会長
	江崎亜希子	一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟	事務局	三好公子	一般社団法人愛媛県サッカー協会	副会長
	片貝仁子	公益社団法人富山県サッカー協会	副会長	中西朋子	一般社団法人和歌山県サッカー協会	副会長
	岸田直美	一般社団法人兵庫県サッカー協会 ASハリマアルビオン	副会長 代表取締役社長	橋本美湖	公益財団法人北海道サッカー協会	理事/女子副委員長
	北本綾子	オルカ鴨川FC	GM	山郷のぞみ	ちふれASエルフェン埼玉	
	小室瑞紀	ノジマステラ神奈川相模原	広報・WEリーグ理念推進担当	山本早	浦和レッドダイヤモンズ株式会社	
	撰朋恵	サンフレッチェ広島レジーナ	強化担当	土井恵	株式会社セレッソ大阪	専任課長
3期生	田中麗美	横浜FCニッパツシーガルズ	パートナーセールスグループ次長	浅野住江	株式会社マイナビフットボールクラブ	主任
	橋本紀代子	大和シルフィード	フロント	斉藤織恵	ニッパツ横浜FCシーガルズ	GM
	三上尚子	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	GM	柴田若菜	一般社団法人日本女子サッカーリーグ	事務局長
	柳田美幸	三菱重工浦和レッズレディース		井尻真理子	株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ	営業副部長
				西村明子	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ	部長
				山田博子	一般社団法人全日本女子野球連盟	会長
4期生						

※50音順/所属先・役職は申込時のもの

## ▶ 講習内容一覧

	講習内容	講師名	所属・役職
第4期	基調講演①	女性とリーダーシップ	山口香 筑波大学教授・JFA理事
	基調講演②	女子サッカーのあゆみ	岡島喜久子 初代WEリーグチェア
	講義①	世界の女子サッカー	今井純子 JFA理事・女子副委員長
	講義②③	ジェンダーを理解する	山口理恵子 城西大学教授・神奈川県FA理事
	講義④	アメリカ女子サッカー事情とその価値	中村武彦 Blue United Corporation CEO・WEリーグ国際アドバイザー
	講義⑤	ハラスメントケーススタディ	小林美由紀 WEリーグ理事 山口理恵子 城西大学教授・神奈川県FA理事
	講義⑥	ガバナンス・コンプライアンス	大江修子 TMI法律事務所・WEリーグ監事
	講義⑦	アサーティブコミュニケーション	小柳茂子 相模女子大学教授
	講義⑧	メディアマーケティング・女子サッカーの価値	松岡けい WEリーグ理事
	講義⑨	WEリーグの価値・キャリア・リーダーシップ	高田春奈 WEリーグチェア
		個人発表	—
	グループ発表・シンポジウム	詳細は34ページに記載	

※所属・役職は講習実施時のもの



## ▶ JFA/WEリーグ女性リーダーシッププログラム受講者の所属内訳(人)

	第1期	第2期	第3期	第4期
47FA	3 (北海道、埼玉県、佐賀県)	3 (富山県、愛知県、兵庫県)	3 (北海道、神奈川県、広島県)	5 (兵庫県、長野県、愛媛県、和歌山県、北海道)
WEリーグクラブ	3	4	2	4
なでしこリーグクラブ	2	3	1	1
Jリーグクラブ	0	0	2	1
日本女子フットサルリーグクラブ	0	0	1	0
リーグ・連盟	3	2	2	3
JFA	1	0	1	0

### ●女性リーダーシップシンポジウム

本プログラム修了生による座談会を、2023年10月29日に開催。プログラム受講後の活動進捗や現在抱えている課題に関して、4期生を交えてディスカッションを行いました。

### [シンポジスト]

- 1期生：手塚貴子（栃木県 FA 理事）
- 2期生：三上尚子（ジェフユナイテッド市原・千葉レディース監督／千葉県 FA 理事）
- 3期生：神一世子（神奈川県 FA 理事）

### [ファシリテーター]

山口理恵子（城西大学教授）

## **.WE LEAGUE** 2023-24 WEリーグカップ決勝での WE ACTION

### ●オブザーバープログラムの実施

2023-24 WE リーグカップ決勝において、「女子サッカーを職業に！」をテーマに、女子学生を対象としたオブザーバープログラムを実施しました。

2022-23シーズンの WE ACTION MEETING でのディスカッションをベースに企画され、元選手、女性コーチ、運営スタッフなどの仕事に触れる機会をつくり、サッカーに関わる女性を増やすきっかけとしたいとの想いも込められています。

高校生から大学院生までの合計6人の女子学生がプログラムに参加しました。プログラム前半では、試合直前の運営エリア見学や、元 WE リーグ選手・現なでしこジャパンのコーチらを招いたトークセッションを実施。後半には、実際に WE リーグの試合を観戦してもらいました。

### ●多様性情報発信ブース

場外イベントエリアでは、2022年に引き続き多様性情報発信ブースを展開し、来場者への情報発信を実施しました。



©WEリーグ

## **.WE LEAGUE** WEリーガー研修

WEリーグではシーズン開始前に、選手全員を対象にオンラインでWEリーガー研修を行っています。3シーズン目は、「EMPOWER YOURSELF 自分の『POWER = よいところ』を伝えよう」をテーマに、1日目の新人研修には41人、2日間の全員研修には150人が参加しました。特に、「プロとは」の講義では、吉田麻也選手、楨

野智章さんを迎え、選手たちが自らファシリテーターを務め、多くの質問が飛び交う活発なセッションとなりました。



### WEリーグ公式 YouTubeチャンネル

WEリーガー研修2023

参照：<https://youtu.be/6z92jShPYTE>

### ▶ WEリーガー研修スケジュール

	新人プロ選手	プロ選手全員	
	7月4日	5日	6日
研修①	イントロダクション 「WEリーグの理念」 「女子プロサッカー選手とは」 講師 高田春奈、小林美由紀、東明有美	イントロダクション 「3年目に向けて」 「WEリーグ2022-23シーズンの振り返り」 講師 高田春奈、東明有美	プロとは 「WEリーガーに伝えたいこと」 「選手からの質問、ディスカッション」 講師 楨野智章、吉田麻也
研修②	プロ「個人事業主」とは 「プロとして収入を得るということ」 「お金、税金などの知識を身につける」 講師 多田雅之	自分の心を整える(メンタル) 「心はトレーニングできる」 「日常のこころの整え方」 講師 坂中尚哉	ジェンダー 性の多様性・海外での動き 「ダイバーシティとは」 「LGBTQのインクルージョンについてのディスカッション」 講師 野口亜弥
研修③	自分の身体を知る(スポーツ医学) 「アスリートとして月経と向き合う」 「女性の身体」 講師 高尾 美穂	自分の言葉で発信する 「プロ選手としての発信」 「経験を言葉にする」 講師 三須亜希子	
研修④	自分の強みを言語化しよう 「プロ選手としての誇り」 「言葉にすること」 講師 大浦征也、東明有美		

## **JFA | .WE LEAGUE** 海外事例を知る

### ● UEFA Assistプログラム (2つのワークショップ)

2022年に引き続き、UEFA Assist プログラムの一環として、ヨーロッパの先行事例から学ぶ機会を得ました。コロナ禍も明けたこともあり対面で、4日間で2つのワークショップを実施しました。

#### ①女性のリーダーシップ

WEリーグ・なでしこリーグ/クラブスタッフ、現役選手、大学生、JFA コーチ、JFA 職員ら24人が参加。「リーダーシップにおける女性の状況と課題」「サッカーにおけるあなたのキャリア」「自信を持ちリーダーシップを

とっていくためのスキル」「文化を変える」といったプログラムを通して、自分自身の5年後のキャリアを考え、そのために何をすべきなのか、女性がキャリアを築く上で障壁となっている外的・内的要因は何か、それに立ち向かうためにはどうあるべきか、女性がサッカーを続ける上で障壁となっているものは何か、そのためのアクションについて考え、意見交換を行いました。

#### ②女子サッカー発展のためのワークショップ

女子サッカーの環境整備や運営についてのベストプラクティスを共有し、今後の戦略プランを持つことを目的

とし、女子サッカーに関わるさまざまなエリアからの男女39人の参加者を得て実施しました。組織においてなぜジェンダーバランスが必要なのか、女性がサッカー界に定着できない阻害要因は何か、また、女性スポーツにおけるマーケティングやブランディング、プロモーション事例を共有し、女性スポーツの価値を上げ、リーグやクラブ、選手の成長につなげるために何ができるかについて意見交換を行いました。

### ● FIFA 女子サッカーコンベンション

FIFA 女子ワールドカップオーストラリア & ニュージーランド2023の決勝前に、2日間にわたり FIFA 女子サッカーコンベンションが開催されました。各国から会長、専務理事、女子サッカー責任者が招待され、女子サッカー発展戦略に関わる5つの柱、すなわち①発展と成長、②教育とエンパワー、③統治とリード、④広報と商業化、⑤ゲームのショーケースについて議論されました。JFAの宮本恒靖専務理事が③のパネルディスカッションに登壇し、女性活躍について日本での取り組みを共有しました。

今大会が前回大会からあらゆる面で大きな成長を見せ、打ち出した数字が価値の証明となったこと、女子サッカーに対する見方、価値が向上し、純粋なフットボールとしての価値が見出され、新たなオーディエンスを得たこと、女子サッカーがチャリティではなく、投資をしリターンを得られるものとなったこと、女子サッカーは大きな発展の機運の中にあり、今この時を世界中で生かして力を集中し、一つ上のステージを目指すことが確認されました。



### ● ウーマンズ・リーグス・フォーラム

アメリカ女子プロサッカーリーグ (NWSL) の決勝が開催されたアメリカ・サンディエゴで、2023年11月10日、

「ウーマンズ・リーグス・フォーラム (Women's Leagues Forum)」が設立されました。初代理事会メンバーに、WE リーグの高田春奈チェアが選出されました。16カ国の女子サッカーリーグが連携し、好事例や課題を共有し、ビジネス開発の機会を追求します。カレンダーやセーフガーディングなど、女子サッカーリーグ特有のニーズや要望をくみ取り、アスリートや組織のメンバーの声が確実に届くようなプラットフォームの形成を目指します。



### WE リーグ公式 Web サイト

「ウーマンズ・リーグス・フォーラム」設立  
参照：<https://weleague.jp/news/1231/>

### ● 海外女子サッカー勉強会

ジェンダー平等や女性活躍など社会の意識の高まりにより、世界的女子サッカーは、環境が整い、パフォーマンスが向上し、多くの人が関心を持ち、興行的価値が高まっています。WE リーグでは、なかなか得ることが難しい海外的女子サッカーの情報を、クラブやメディアの皆さんと共有し、リーグの運営やクラブの経営に生かしていくために、海外的女子サッカー事情に関する勉強会を不定期に開催しています。

#### 〈 アメリカ女子サッカーに関する勉強会 〉

年々、価値を増しているアメリカ女子プロサッカーリーグ (NWSL)。ニューヨーク在住のWE リーグ国際アドバイザーの中村武彦氏による「女子サッカーのビジネス的価値」をテーマにした勉強会を実施。NWSLの組織や盛り上げるための工夫などをリーグおよびクラブ関係者、メディアに向けて講義しました。

#### 〈 ラ・リーガ勉強会 〉

スペインでは、2022年に女子プロサッカーリーグ Liga F が設立されました。プロリーグ設立の中心人物である Liga F フットボール戦略室長のペドロ・マラビア氏によるオンライン勉強会を実施。7年前には瀕死の状態だったスペインの女子サッカーがプロ化に至るまでの経緯と、男子のトップリーグである La Liga が、女子サッカーになぜ投資したのかをリーグおよびクラブ関係者、メディアに向けて講義しました。

## 原則 5



### 取り組み報告

# 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動

## JFA 協賛企業との取り組み

JFAとして、協賛企業とさまざまな事業・活動を実施しています。

### アディダス「HER TEAM」プロジェクト

**取り組み概要** JFAとアディダス ジャパン株式会社は、10月より「アディダス・JFA共同プロジェクト『HER TEAM』」の2023年度の募集を開始しました。

「HER TEAM」は、JFAとアディダスとのパートナーシップの下に2020年に立ち上げたプロジェクトで、女子サッカープレーヤーの5人に1人が13歳になったタイミングでサッカーを辞めてしまうという課題を解決すべく、ボトルネックとなっている中学生年代（3種）の女子サッカークラブの創設支援をJFAとアディダスが連携して行っています。

女子選手の場合、小学生年代では男子と共にプレーしているケースが多いですが、体格や体力など男子との差が出てくる中学生年代では、女子チームでプレーを続けることを希望する選手が多くなってきます。しかし、女子サッカー部のある中学校が少なく、U-15年代の女子チームは全登録チームのうち2.8%にとどまっています。女子のユース（高校生年代）チームや社会人チームなどでプレーする中学生選手はいるものの、

U-15年代女子のプレー機会の確保にはさらなる努力が必要となっています。

JFAとアディダスによる本プロジェクトにおいては、2020年の始動からこれまで30のチームの創設され、チームユニフォームやサッカークリニックなどのサポートが参画チームに提供されました。2023年度も、審査を通過した創設予定チームを対象にさまざまなサポートを提供しています。



### MS&ADカップ2023開催

**取り組み概要** MS&AD インシュアランスグループとして2015年より日本代表戦での特別協賛をスタートしており、2023年も「MS&AD カップ2023」を開催しました。

#### 【対象試合】

7月14日 vs パナマ女子代表（宮城県・ユアテックスタジアム仙台）

「JFA キッズサッカーフェスティバル×MS&AD インシュアランスグループサッカー教室 in 仙台」を開催。会場となった弘進ゴムアスリートパーク仙台には、小学校低学年のサッカー初心者を中心とした親子約80人が集まり、ウォーミングアップや親子でのサッカーを楽しみました。MS&ADグループとして5度目となる今回のサッカー教室には特別ゲストに鯨島彩選手、近賀ゆかり選手が参加し、集まった参加者の子どもたちと触れ合いました。

©JFA



## JFA Magical Field Inspired by Disney

**取り組み概要** 2022年7月より、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社のコンシューマ・プロダクツ部門とともに、女子サッカーの新プロジェクト「JFA Magical Field Inspired by Disney」を開始し、2023年度も継続して活動を行っています。

このプロジェクトでは、JFA 中期計画内で「重点3領域」に位置づけている「女子」や「4種年代」における取り組みをディズニーとともに進めることで、サッカーファミリーのさらなる広がり、そしてサッカーファミリーの方々のさらなる楽しみを醸成するためのプログラムを提供しています。

「ファミリーサッカーフェスティバル“First Touch (ファーストタッチ)”」は小学校1～3年生のサッカー未経験・初心者を対象とした親子参加型のサッカーイベントで、2023年度は全国で19回開催しました。

その中でも、2023年は“First Touch Premium (ファーストタッチプレミアム)”として、全国のスタジアムやアリーナにおいて「プレミアム」仕様でイベントを開催。フォトスポットでは、マジカルフィールドの世界観をより一層体験していただ

けたほか、オリジナルデザインのユニフォームTシャツとサッカーボールもプレゼントしました。

2023年8月の島根県からスタートし、13会場で“ファーストタッチプレミアム”を実施。「最初の一步」を踏み出したのは、合わせて959組1918人のファミリーとなりました。

さらに、2023年からは新たに「なでしこひろば“Second Touch (セカンドタッチ)”」をスタートしました。

“セカンドタッチ”は、これまでサッカーをやったことがなかった小学生以下の未経験者、初心者を対象とした、新しい女子サッカー応援プログラムで、全国のJFA なでしこひろば認定団体が開催しています。地域で日常的に開催しているこの「JFA なでしこひろば」において、“ファーストタッチ”と同じように、ディズニープリンセスを用いた会場装飾を施し、まだサッカーを始めたばかりの子どもたちでも、身近で、気軽に、楽しく、サッカーやスポーツの楽しさを感じることを目指しています。



## オーダーシューズブランド「DIFFERENCE」を展開するコナカと「サッカー日本女子代表アパレルプロバイダー」契約を締結



**取り組み概要** JFA は、オーダーシューズブランド「DIFFERENCE」を展開する株式会社コナカと「サッカー日本女子代表アパレルプロバイダー契約」を締結しました。オーダーシューズブランド「DIFFERENCE」のコンセプトは「パーソナライズ」で、これは「BE YOUR BEST SELF 最高の自分であれ」というなでしこジャパンのパーパス（存在意義）にも通ずるものがあります。選手それぞれの個性を輝かせてくれるこのシューズを着用し、なでしこジャパンは世界の舞台に挑戦していきます。

## **.WE** LEAGUE 各種取り組み

### WEリーグ公式マスコット「ウィーナ」誕生

**取り組み概要** サッカーファンはもちろん、あまりサッカーに興味がない若い女性や子どもたちにも WE リーグに興味を持っていただき、ファンのすそ野を広げたいという思いから、WE リーグの公式マスコットが誕生しました。WE リーグの「ウィー」と勝者を意味する「winner」をイメージし「ウィーナ」と命名されました。これから色々な場所にお出かけして、たくさんの方に WE リーグを身近に感じていただけるよう、活動の幅を広げていきます。



©WEリーグ

### 東京都渋谷区に女子サッカーの情報発信拠点「HOME of .WE」をオープン



**取り組み概要** 2023年10月、WE リーグは渋谷を訪れる多様な人々に、女子サッカーの「今」を感じてもらえる場所として、情報発信拠点「HOME of .WE」をオープンしました。女子サッカーの魅力をお伝えすることはもちろん、多様性社会に関心がある人たちにも WE リーグのメッセージをお届けし、「何だろう」「面白そう」「知りたい」「見てみたい」のきっかけとなる場にしていきたいと考えています。

### WEリーグ公式アプリを公開

**取り組み概要** WE リーグをより身近に感じてもらうために WE リーグ公式アプリを公開しました。各メディアや SNS にあるコンテンツをアプリに集約することで、WE リーグの最新情報をファン・サポーターの皆さんにすぐお届けすることができます。



©WEリーグ

## **WE LEADERS** パートナー各社との取り組み

WE リーグでは、パートナー各社とのさまざまな事業・活動を進めています。

### ▶ WEリーグパートナー各社の協賛趣旨（ダイバーシティ&インクルージョン関連事項抜粋）

会社名	協賛主旨
株式会社ビーズインターナショナル (X-girl)	選択肢の多様化が進む中、X-girlはWEリーグと一緒に現代の若い女性が自分らしく生きるための「GIRL'S MOVEMENT」を起こす。2022-23シーズンは、6クラブのユニフォームを製作。東京・国立競技場を舞台にビジュアル撮影を行い、WEリーガーの新たな魅力を発信
旭化成ホームプロダクツ株式会社	サステナビリティ視点での情報発信（時短テクニックで仕事と家事の両立を支援し、男女共同参画社会の実現に貢献したい）
パーソルホールディングス株式会社 パーソルテンプスタッフ株式会社 パーソルキャリア株式会社	女性アスリートの柔軟で多様なはたらき方・キャリア形成を支援、また「WEリーグ」に関わる選手・スタッフへのキャリア支援を通じ、女性のさらなる活躍の場の拡大への貢献とともに「はたらいて、笑おう。」の実現を推進したい
クラシエ株式会社	WEリーグの理念に共感し、多様性にあふれる社会に貢献するために、CRAZYな挑戦を行っていききたい
KPMG コンサルティング株式会社	地域・企業・個人・チームの共感・共創・共栄、意識改革をサステナブルに促す仕組みと基盤の構築、一層の「WE ACTION」推進・社会変革ムーブメント創出へ向け、「①価値創造ストーリーの策定」、「② WE ACTION 共創型プラットフォーム・社会価値算定の実装」、「③ WE ACTION と連動したワークショッププログラムの立案と推進」をとともに行っていく
DAZN Japan Investment 株式会社	DAZN ならびに DAZN の持つ 360 度のあらゆるチャンネルで女子サッカー・女子スポーツの魅力伝えていきたい。スポーツを文化に、そしてスポーツの力でより豊かな社会を築く

©WEリーグ

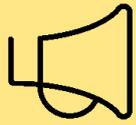


WE ACTION MEETINGの具体的な取り組みとして、キャリアの観点にて女子サッカー部所属の高校生と共に、ワークショップを実施いただいた(パーソル)



家事の男女共同参画社会を訴求するために、現役WEリーガーを起用したCMを制作、理念共感を発信いただいている(旭化成ホームプロダクツ)

原則 6



# 地域における リーダーシップと参画

## ●47都道府県サッカー協会の取り組み

一般スポーツ団体向けのガバナンスコードでは、中央競技団体向けとは異なり、組織運営、編成に関する数値目標は挙げられていません。しかし、国内競技連盟(NF)に準じる公共性の高い団体であり、中央競技団体向けのものを参照しつつ、役員等の多様性の確保に取り組んでいくことが重要です。クラブやリーグ、連盟もこれに準じると考えます。

下表では、47都道府県サッカー協会(FA)における女性役員の人数と割合の内訳を示しています。役員を増やしていくためにも、サッカー界全体で、女性があらゆる場に一定数いて、そのポテンシャルを発揮できる状態

になっていることが大切です。

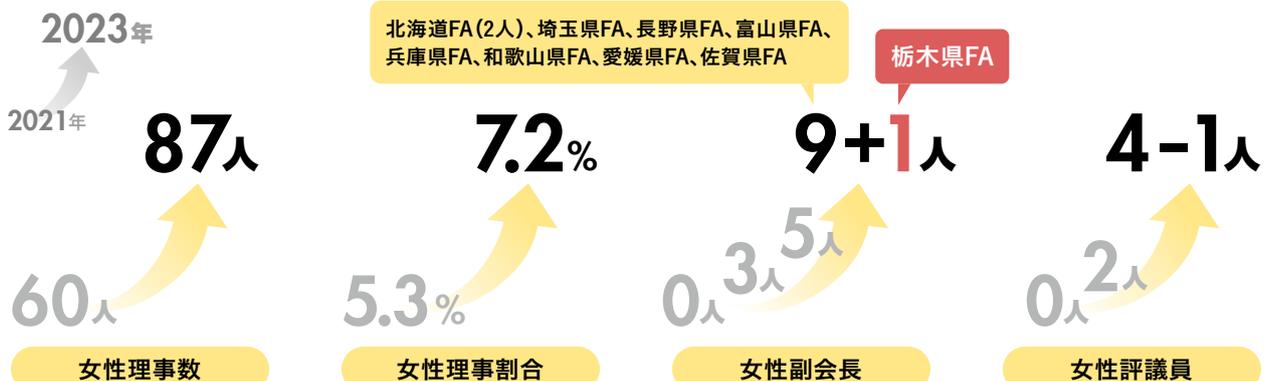
47FAにおける役員改選は2年ごとであり、2023年には6FAでの改選ということで、大きな変化はありませんが着実に前進しています。WEPs年次レポートを作成し、47FA、加盟団体などに共有させていただき、そのことで意識していただく協会、団体が増えてきたと認識しています。

本レポートや研修機会の提供、また好事例(女性役員を増やしたことによる組織内のポジティブな変化など)、この課題の改善に向けた取り組みをさらに共有し、共に取り組んでいきます。

### ▶47FAにおける女性役員の人数と割合(2023年は6FAで改選)

	人数	前年	女性理事数	理事総数	女性割合	女性理事数	FA数	前年	女性割合	FA数
会長	0	0	87 [81]	1,208 [1,140]	7.2% [7.1%]	0	10	12	0~1%未満	10
副会長	10	9				1	13	13	1~5%未満	9
常務理事	1	4				2	13	11	5~10%未満	13
専務理事	5	1				3	4	3	10~15%未満	7
理事	71	67				4	2	4	15~20%未満	7
監事	7	7				5	3	2	20~25%未満	1
特任理事	5	4				6	1	2	25~30%未満	0
合計	99	92	7	1	0	合計	47			
			JFA評議員 3 (長野県FA、和歌山県FA、WEリーグ)			合計		47		

※評議員総数は79



長野県FA、和歌山県FA、WEリーグ

## ●北海道 FA の取り組み

### 【女性が輝く社会に向けて地域FAができること】

北海道 FA は、女性副会長2人、女性理事3人がおり、クォーターに届かないまでも、意思決定において女性の意見が反映されやすい環境です。この環境をさらに充実させるため、地域 FA だからこそできる取り組みを進めています。

### 【女子サッカーデー講演会『リスペクトと歩む女子サッカー～女性活躍の未来、北海道女子サッカーの未来～』】

サッカーを通じて女性が輝く社会を目指す『なでしこ vision』の根底には、性差から生じる差別に対して、リスペクトの本分をもって乗り越えようとする姿勢があり、女子サッカーに関わるすべての人にとって、リスペクトはより大きな意味を持つと考え、2023年2月11日、リスペクトをテーマにした女子サッカーデー講演会を開催しました。日本の女子サッカーを牽引してきたWEリーグ初代チェアの岡島喜久子さんと JFA の今井純子さんのお考えを直接聴く機会とともに、道内サッカー界を支える皆さまを聞き手としてお招きし、それぞれの立場からのご意見により、北海道における女子サッカー活性化のヒントを得ることができました。

### 【なでしこジャパン応援『メッセージフラッグ企画』】

2023年2月には、FIFA 女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023を戦うなでしこジャパン（日本女子代表）へのメッセージを、道内のフットボールファミリーから募る企画を実施しました。コンサ

ドーレ・エスポラーダカップならびに全道フットサル選手権大会女子の部に設け

た特設ブースには、北海道出身の熊谷紗希選手と手代木直美審判員からのメッセージもパネルとして掲出。約1000人が、メッセージをお寄せくださいました。また、ワールドカップの日程を記載した「北海道の女子サッカーガイド」を配布し、女子ワールドカップを応援する機運とともに女子サッカーへの理解をフットボールファミリーに深めていくことも期待しました。計6枚のフラッグは、なでしこジャパンの元に届けられ、大会前に公式SNSに掲載いただきました。とりわけ特設ブースのスタッフとして活動した札幌東商業高校の女子選手は、なでしこジャパンとのつながりを感じる機会となりました。

### 【女性人材輩出の下地づくりとして】

鷺津裕美副会長が、2020年に第1期生として受講した JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラムでの経験は（その後2人が同プログラムに参加）、道内サッカー界における女性の役割をあらためて考えさせられる機会となり、その知見を女性人材輩出の下地づくりのための事業に生かしています。2021年には冊子「北海道のフットボールを支える女性たち」を製作しましたが、これはすでに活躍している身近な女性の姿から、さまざまな形でサッカーに関わる道筋を伝えるツールとなりました。2024年に第2弾の製作を予定しています。今後も JFA の取り組みと連動しながら、北海道の女性が輝くために取り組んでいきます。



## ●WE LEAGUE 地域との取り組み

### ●渋谷から世界へ～渋谷区との連携協定締結

2023年6月、WE リーグは「多様性社会の実現を目指す」という理念が一致する東京都渋谷区にオフィスを移転し、連携協定を締結しました。「渋谷区スポーツ推進



©WEリーグ

計画」に基づく、スポーツを「する」「見る」「支える」「つながる」機会を創出することにより、すべての人がス

ポーツに関わることができる社会の実現を目的として相互に協力・連携する内容となっています。

### ●埼玉県知事杯による女子サッカー盛り上げ

埼玉県には WE リーグのクラブが3クラブ（三菱重工浦和レッズレディース、ちふれ AS エルフェン埼玉、大宮アルディージャ VENTUS）あります。埼玉県からもっと女子サッカーを盛り上げていくために、県の主催で「知事杯」が創設され、熱い戦いが繰り広げられています。

原則 7



取り組み報告

# 透明性、成果の測定、報告

本原則に対する取り組みは、まさにこのレポートです。年次レポートを作成して現状や成果をフォローし、また好事例を共有しつつ、課題に対して一つ一つ粘り強く取り組んでいきます。昨年、1年目のレポートを作成して発信したことで、サッカーファミリーの皆さんに情報を届け、各組織の中でご検討いただけたケースが多くあったことを実感しています。本レポートをサッカー界で共

有することで、この課題自体への理解を広げるとともに、さらに深めていただき、課題意識を持つ仲間を増やしていきます。

【関連の取り組み】

- 「女性登用の見える化」と各クラブによる「WE ステートメント」(16~18ページ参照)

▶ 女性活躍推進活動の振り返り(一覧)

	JFA	JFA&WEリーグ	WEリーグ
原則 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● なでしこ vision</li> <li>● JFA 女子サッカーデー</li> <li>● JFA 規則：妊娠/出産に関わる契約上の不利益の禁止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● WE リーグ開幕</li> <li>● なでしこリーグビジョン・ステートメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● WE リーグの名称とロゴ</li> <li>● WE リーグの理念とビジョン</li> <li>● 理念推進のために設定した参入基準</li> <li>● WE リーガークレド (行動規範)</li> <li>● 優勝チームに贈られる「WE リーグトロフィー」</li> <li>● 理念推進日「WE ACTION DAY」</li> <li>● WE ACTION MEETING</li> </ul>
原則 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サッカーファミリーにおける女性の人数</li> <li>● JFAの役員・職員等における女性の人数</li> <li>● 女性指導者</li> <li>● 国際的に活躍する女性指導者</li> <li>● 女性審判員</li> <li>● 障がい者サッカーでの女子日本代表活動</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● WEリーグ・なでしこリーグの役員・職員等における女性の人数</li> <li>● WE リーグの女性登用の見える化</li> <li>● WE STATEMENT 2023</li> <li>● KEEP PLAYING</li> <li>● WE MEETING</li> <li>● あらゆる場面での女性の活躍</li> </ul>
原則 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>● FIFAが女子健康・ウェルビーイング・パフォーマンスプロジェクト発信</li> <li>● ピンクリボン運動への取り組み</li> <li>● 女性審判員の産前・産後サポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ウェルフェアオフィサー制度</li> <li>● リスペクト・フェアプレー</li> <li>● 現役選手の産前・産後サポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 託児施設の設置</li> </ul>
原則 4		<ul style="list-style-type: none"> <li>● JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム</li> <li>● 海外事例を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2023-24 WEリーグカップ決勝でのWE ACTION</li> <li>● WE リーガー研修</li> </ul>
原則 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協賛企業との取り組み</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種取り組み</li> <li>● パートナー各社との取り組み</li> </ul>
原則 6		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 47都道府県サッカー協会の取り組み</li> <li>● 北海道 FA の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域との取り組み</li> </ul>
原則 7		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年次レポート作成</li> </ul>	

※競技そのものに関わる項目は除外して記載

## 女子サッカーインフォメーション

なでしこジャパンの  
パーパス(存在意義)を新たに言語化

なでしこジャパンの存在意義は、  
「自分らしく挑戦する象徴である」ことです。

なでしこジャパンは、自分と仲間を信じながら自分たちらしく挑戦し、  
自ら輝くことで、今を生きるすべての人に勇気を届け、  
ともに前進する存在であり続けます。

BE YOUR BEST SELF   
最高の自分であれ

FIFA女子ワールドカップドイツ2011で初優勝するなど、数々の壁を乗り越えてきたなでしこジャパン(日本女子代表)。その裏側にはどんなときも自分と仲間を信じ抜き、自分たちらしく挑戦する姿がありました。この「自分らしく挑戦する」ことはいつの時代も不変な、なでしこジャパンの価値であり、その象徴として人々に勇気を届けることが存在意義だと考えます。自分たちらしく最大限の力を発揮することで自らが輝き、その姿を見ていただくことで応援いただく方の心を揺さぶることができる。「BE YOUR BEST SELF – 最高の自分であれ –」の言葉を胸に、なでしこジャパンは世界をエンパワーしていきます。

FIFA女子ワールドカップ  
オーストラリア&ニュージーランド2023

2023年7~8月に、FIFA女子ワールドカップがオーストラリアとニュージーランドで開催されました。初の南半球での開催となり、全試合合計の観客数は約198万人、1試合平均は3万911人。決勝には7万5884人がスタジアムに詰め掛けました。テレビでは20億人が視聴し、売上は5億7000万ドル(約800億円)となり、女子サッカーの価値を証明する大会となりました。

なでしこジャパンはベスト8で残念ながら敗退となりましたが、今大会でもまたフェアプレー賞を受賞。観る者を魅了し、敗退した際には、国際サッカー連盟(FIFA)のジャンニ・インファンティーノ会長からの異例の感謝のコメントがありました。FIFAの公式SNSでも、使用後のロッカールームの様子などが発信されました。



©JFA



## 第19回アジア競技大会(2022/杭州)優勝

“

コロナ禍の影響により開催が延期されていた第19回アジア競技大会(2022/杭州)が、2023年9～10月に中国・杭州市と温州市にて開催されました。女子オリンピック サッカートーナメントパリ 2024 アジア2次予選に向けた活動と重なったこともあり、国内でプレーする若手選手を中心としたチームが編成されました。結果は、見事に優勝。日本の層の厚さや、个性的かつ魅力的な選手が多く存在していることが証明されました。2023年は、FIFA女子ワールドカップからアジア競技大会、そしてパリオリンピックのアジア2次予選へとつなぐ、すばらしい流れができました。



## 特別国民体育大会 サッカー競技 少年女子の部(U-16)

“

2020年に開催予定であった第75回国民体育大会(燃ゆる感動かごしま国体)がコロナ禍の影響で延期となっていましたが、「特別国民体育大会 サッカー競技」として、2023年10月に鹿児島県で開催されました。

少年女子の部(参加資格はU-16)は2年目の開催となり、今年は大阪府が優勝、開催県である鹿児島県が準優勝でした。各都道府県が初年度からさまざまな工夫や活動を充実させたことが大会のレベルアップにつながっており、この種別が新設されたことの意義を感じました。今後、全国でさらなる発展につながることが期待されます。

開催県である鹿児島県サッカー協会(FA)においては、国体レガシーとして、女子のリテンション企画“鹿児島なでしこ塾”を開催。県内の小学生、中学生、高校生の女子選手とその保護者、そしてそれらの選手たちを指導する指導者を対象に、サッカーを長く続けるために知っておきたい女子の思春期の身体の変化を知る座学とサッカー交流会を実施しました。選手、指導者とも、あらためて身体のことを知ることの意義、できる工夫、人に相談できる関係性や雰囲気等重要であることを感じる、有意義な機会となりました。選手たちが安心して競技を継続できることにつなげるために、こうした取り組みが広がっていくことが期待されます。





**.WE** LEAGUE